

非常持ち出し品

いざというときに備えて、非常持ち出し品を準備しましょう。非常持ち出し品は、リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておきましょう。

非常持ち出し袋

●食料品

☐ 飲料水(1人1日3Lを目安)

☐ 非常食(缶詰、レトルト食品など)

☐ 携帯食(チョコレート、飴など)

☐ _____

☐ _____

●日用品など

☐ ポリ袋(ビニール袋)

☐ ウェットティッシュ

☐ 携帯ラジオ

☐ 懐中電灯

☐ 予備電池

☐ 携帯電話、スマートフォン
(充電器、モバイルバッテリー)

☐ めがね

☐ コンタクトレンズ(洗浄液含む)

☐ 洗面用具(歯ブラシ等)

☐ 新聞紙

☐ ラップ

☐ _____

☐ _____

●救急・安全対策

☐ 常備薬(胃薬、かぜ薬など)

☐ 包帯、ガーゼ、絆創膏

☐ 傷薬、消毒液

☐ 持病の薬

☐ ヘルメット、防災ずきん

☐ ホイッスル

☐ マスク

☐ おくすり手帳

☐ _____

☐ _____

☐ _____

●衣類など

☐ 下着、上着

☐ タオル、毛布

☐ 手袋、軍手

☐ 寝袋

☐ 雨具

☐ 携帯スリッパ

☐ _____

☐ _____





貴重品類

☐ 現金(小銭)

☐ マイナンバーカード、免許証、
パスポートなど(本人確認できるもの)

☐ クレジットカード類

☐ 健康保険証(令和7年12月1日まで)

☐ 資格確認書(健康保険証等)

☐ 預貯金通帳、印鑑

☐ 鍵

●メモ

子どもがいる家庭の備え

☐ ミルク

☐ おむつ

☐ ほ乳ビン

☐ 離乳食

☐ お菓子

☐ フォーク・スプーン

☐ おしりふき

☐ 抱っこひも

☐ おもちゃ

☐ _____

☐ _____

☐ _____



女性・妊婦の備え

☐ 生理用品

☐ サニタリーショーツ

☐ おりものシート

☐ 防犯ブザー/ホイッスル

☐ 中身の見えないゴミ袋

☐ 母子健康手帳

☐ _____

☐ _____

☐ _____

☐ _____

高齢者・障がい者の備え

☐ 大人用紙おむつ

☐ 介護食

☐ 補聴器

☐ 吸水パッド

☐ 持病の薬

☐ 障がい者手帳

☐ 杖

☐ 入れ歯・洗浄剤

☐ _____

☐ _____

☐ _____

☐ _____



その他

☐ ペット用品(ケージリード、ペットフード、トイレ用品)

☐ 耳栓

☐ アイマスク

☐ _____

☐ _____

☐ _____



玄海町

保存版

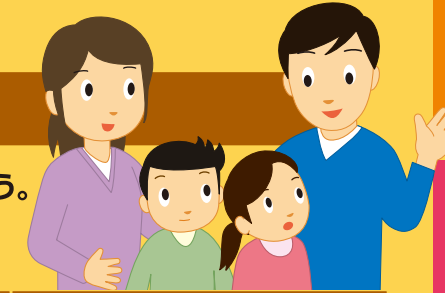
2025年3月作成

防災マップ

いざというときに備えて日頃から家族や地域で
防災について話し合っておきましょう

わが家の防災メモ

家族みんなで考えて、避難先等について話し合い、しっかり記入しておきましょう。



●集合場所

避難先は知人や親戚宅も考えましょう

災害種別	一時避難場所(集合場所)	避難先(第一候補)	避難先(第二候補)
洪水等			
土砂災害			
高潮			
津波			
地震			

●家族の連絡先

氏 名	血液型	電話番号(携帯・会社・学校)	メールアドレス	メ モ

玄海町役場

〒847-1421 佐賀県東松浦郡玄海町大字諸浦348番地 TEL:0955-52-2111(代)

玄海町 防災安全課

TEL:0955-52-2115

災害に備えて

地震

津波

風水害

避難場所等

近年、豪雨災害や地震災害が全国各地で発生しており、甚大な被害をもたらしています。玄海町は山と海に囲まれた土地となっており、地震、津波、洪水、土砂災害、高潮等、考えられる自然災害が多岐にわたります。地域によって警戒すべき災害が異なるため、自分の住んでいる場所にどのような危険があるのかを知り、日ごろから災害の備えをしておきましょう。

洪水大雨による床下、床上浸水	地震揺れや、がけ崩れによる被害
土砂災害がけ崩れや土石流など	津波遠地地震による津波
高潮台風等による高潮	火災

マップの活用方法

災害に対しては日頃からの備えが重要です。この冊子やハザードマップを活用し、各家庭で次のようなことを確認しておきましょう。

1 自宅等の災害危険性をチェックしましょう

- 自宅周辺やよく行く場所の洪水や土砂災害、高潮、津波等の災害危険性を確認し、様々な事態をイメージしましょう。

2 防災情報の入手先を確認しておきましょう

- 災害時に慌てないよう、日頃から防災情報の入手先を確認しておきましょう。

3 避難場所を決めておきましょう

- 土砂災害や浸水の危険がある区域を確認し、どこへ避難するかを決めておきましょう。
- 緊急に避難ができる身近な場所も探しておきましょう。

4 避難場所までの避難経路を考えましょう

- 避難場所まで実際に歩いて、移動時間を確認しておきましょう。
- 避難途中で浸水等があった場合に緊急避難できる場所を探しておきましょう。

5 家庭の状況にあわせた事前の備えを行いましょ

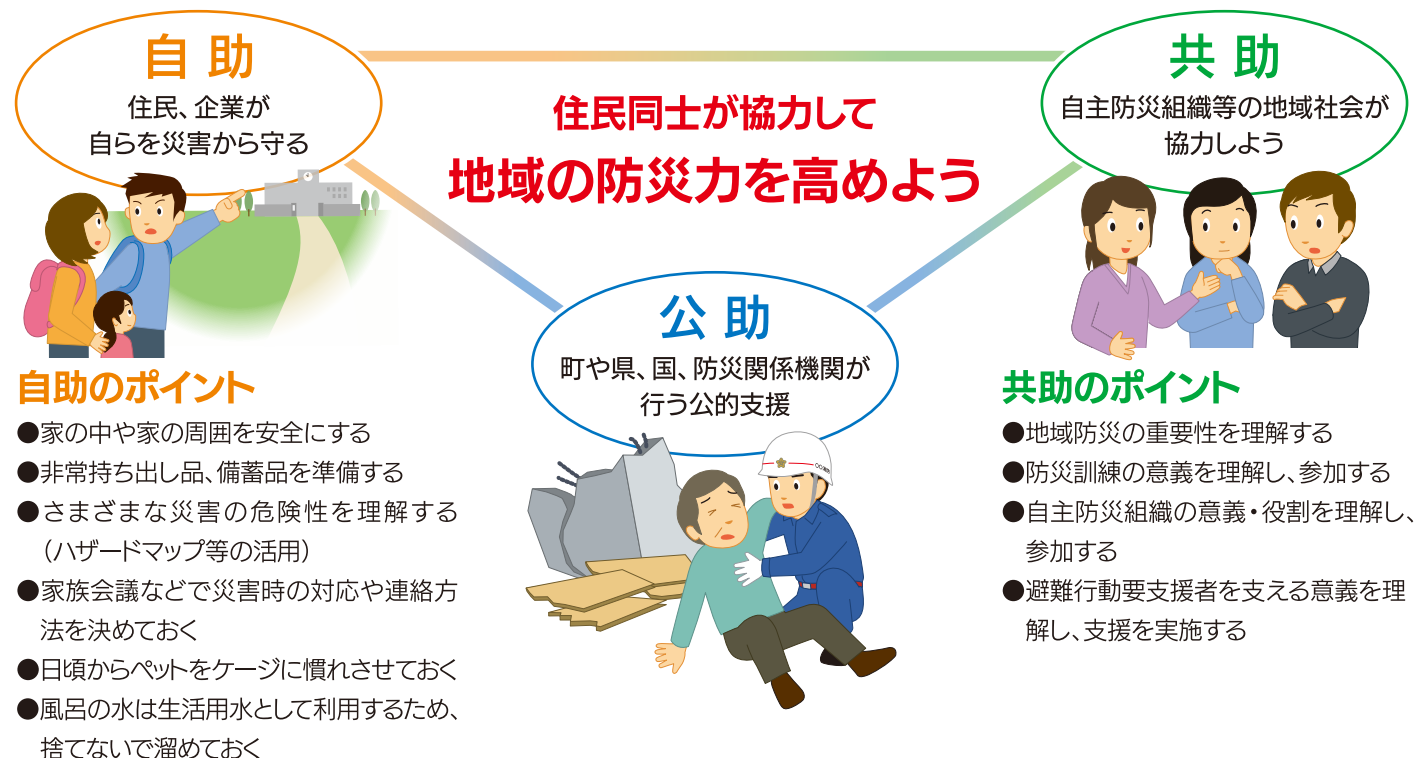
- 家族構成にあわせた非常持ち出し品、備蓄品を準備しておきましょう。
- 災害に備えて自宅の周りや屋内の家具配置を整えましょう。

6 日頃から家族や地域で話し合いましょ

- 災害時に協力し合えるよう、家族や地域で役割などを話し合いましょ。
- 避難時に支援が必要な要配慮者への情報伝達や補助内容を決めておきましょう。

地域での協力 自助・共助・公助

災害時(災害が発生し、又は発生するおそれがある場合)の被害を最小限に抑えるためのキーワードとして、「自助」「共助」「公助」という言葉がよく使われます。自助とは、いざというとき自分や家族の命と財産を守るために、住民、企業が自らを守るために備えることです。共助とは、地域社会の被害を減らすために地域が一丸となって助け合うことです。公助とは、行政が担う総合的な防災対策などを指しています。災害の発生を防ぐことはできませんが、これらの自助、共助、公助が連携し、効果的に機能すれば、被害を減らすことは可能です。以下にあげるポイントを理解し、災害に備えましょう。



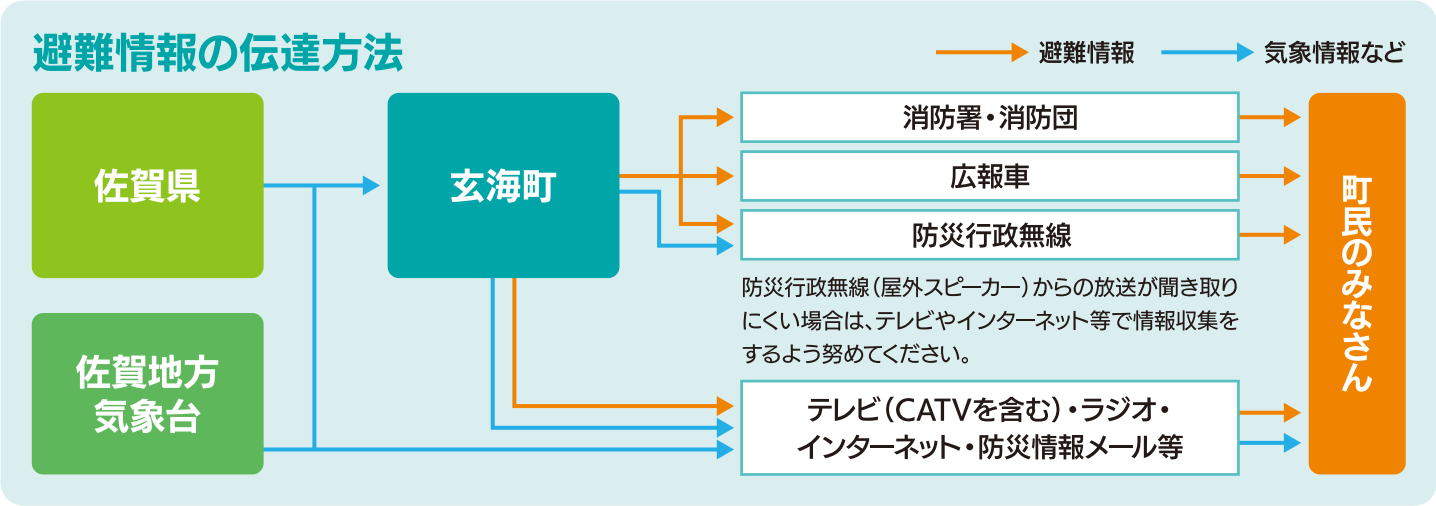
自主防災組織の役割と活動

自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織のことです。自主防災組織は、日頃から災害に備えた様々な取り組みを実践するとともに、災害時には、災害による被害を最小限に食い止めるための活動を行います。

平常時の取り組み	災害時の活動
●地域の安全点検 ●避難場所・避難経路の確認と点検 ●地域住民に対する防災知識の普及と啓発 ●防災資機材の整備と点検 ●自力で避難や移動が困難な方などの確認	●避難誘導 ●初期消火 ●救出・救護 ●情報の収集・伝達 ●給食・給水 ●避難所の運営

情報の流れ

災害発生のおそれがあるときには、気象庁や佐賀県、玄海町などからさまざまな情報が提供されていますので、テレビやパソコン、スマートフォンなどを利用して、発表されている情報を確認してください。



緊急連絡先

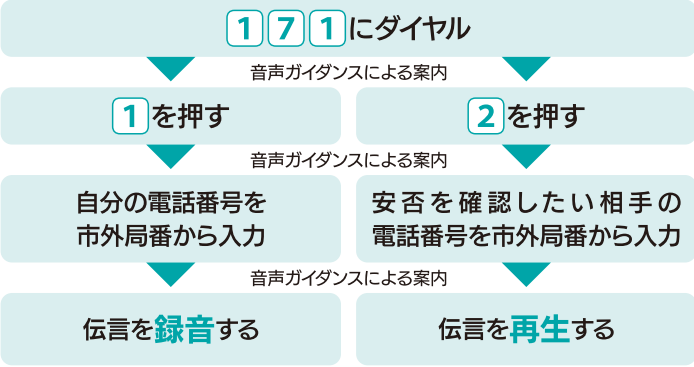
警察への事件・事故の通報	(局番なし) 110	玄海町役場(災害対策本部)	0955-52-2115
火事・救助・救急車	(局番なし) 119	玄海町生活環境課(下水道)	0955-52-2189
海の事件・事故の通報	(局番なし) 118	玄海町生活環境課(上水道)	0955-52-2114
道路緊急ダイヤル	#9910	玄海町福祉・介護課(避難行動要支援者)	0955-52-2220
NTT西日本	113	九州電力送配電	0800-777-9416

災害時の家族や知人との連絡方法 災害用伝言サービス

大災害発生時には、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が続くことがあります。このような場合は、以下のサービスが開設されるので家族や親族、友人・知人との安否確認として活用しましょう。

災害用伝言ダイヤル（固定電話・携帯電話）

災害発生時に、電話を利用して安否情報を登録・確認できる「声の伝言板」です。

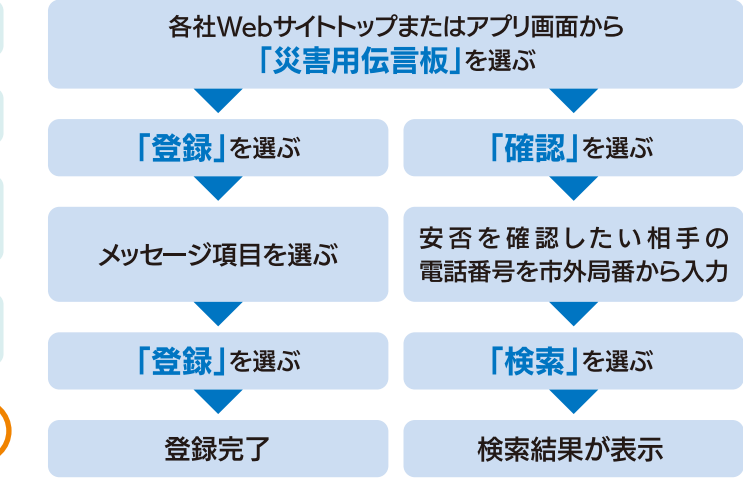


web171 <https://www.web171.jp>

インターネットに接続できるパソコン・携帯電話・スマートフォン等で「web171」を利用することができます。

災害用伝言板（携帯電話・スマートフォン）

災害発生時に、インターネットを利用して安否情報を登録・確認できる「文字の伝言板」です。



※Webサイト・アプリによって操作方法が異なります。詳しくは各社の利用案内をご確認ください。

情報の取得先

玄海町防災ポータル

<https://www.town.genkai.lg.jp/site/bousai-portal/>

町の防災情報をまとめてみるができるページです。

玄海町公式LINE／Yahoo!防災速報

<https://www.town.genkai.lg.jp/soshiki/18/44796.html>

玄海町公式LINE



Yahoo!防災速報



玄海町では、災害協定を締結しているLINEヤフー株式会社の協力により、LINEやスマートフォン用アプリ「Yahoo!防災速報」を活用して防災情報の配信を行っています。コメントに対しては、原則として返信いたしません。緊急通報などは、消防119、警察110に連絡するようお願いします。

玄海町 災害メールサービス

●お問い合わせ先…玄海町役場 防災安全課 電話:0955-52-2115



災害メールサービスは、発生した災害についての情報を、携帯メールへ送信するサービスです。登録は、携帯のEメールの送受信で行います。右の二次元コードを読み取り、空メール（本文が何も記載されていないメール）を送信すると「新規ご登録」メールが配信されます。

テレビやラジオ・チャンネル玄海からの情報

テレビからは、ニュースやテロップに加えデジタル放送（リモコンのdボタン）で防災に関する様々な情報が確認できます。停電になっても使用できるラジオを用意しておくことと安心です。また、「チャンネル玄海」では、町の情報をお伝えしています。



佐賀県 防災ネットあんあん

●お問い合わせ先…佐賀県 危機管理防災課 電話:0952-25-7362

iPhoneをご利用の方



Androidをご利用の方



「防災ネットあんあん」は、佐賀県が防災・安全・安心に関する情報を配信するシステムで、玄海町が発令する「高齢者等避難」や「避難指示」等の避難情報、避難場所の開放情報や避難所の開設情報のほか、気象情報や防犯情報など様々な情報が配信されています。

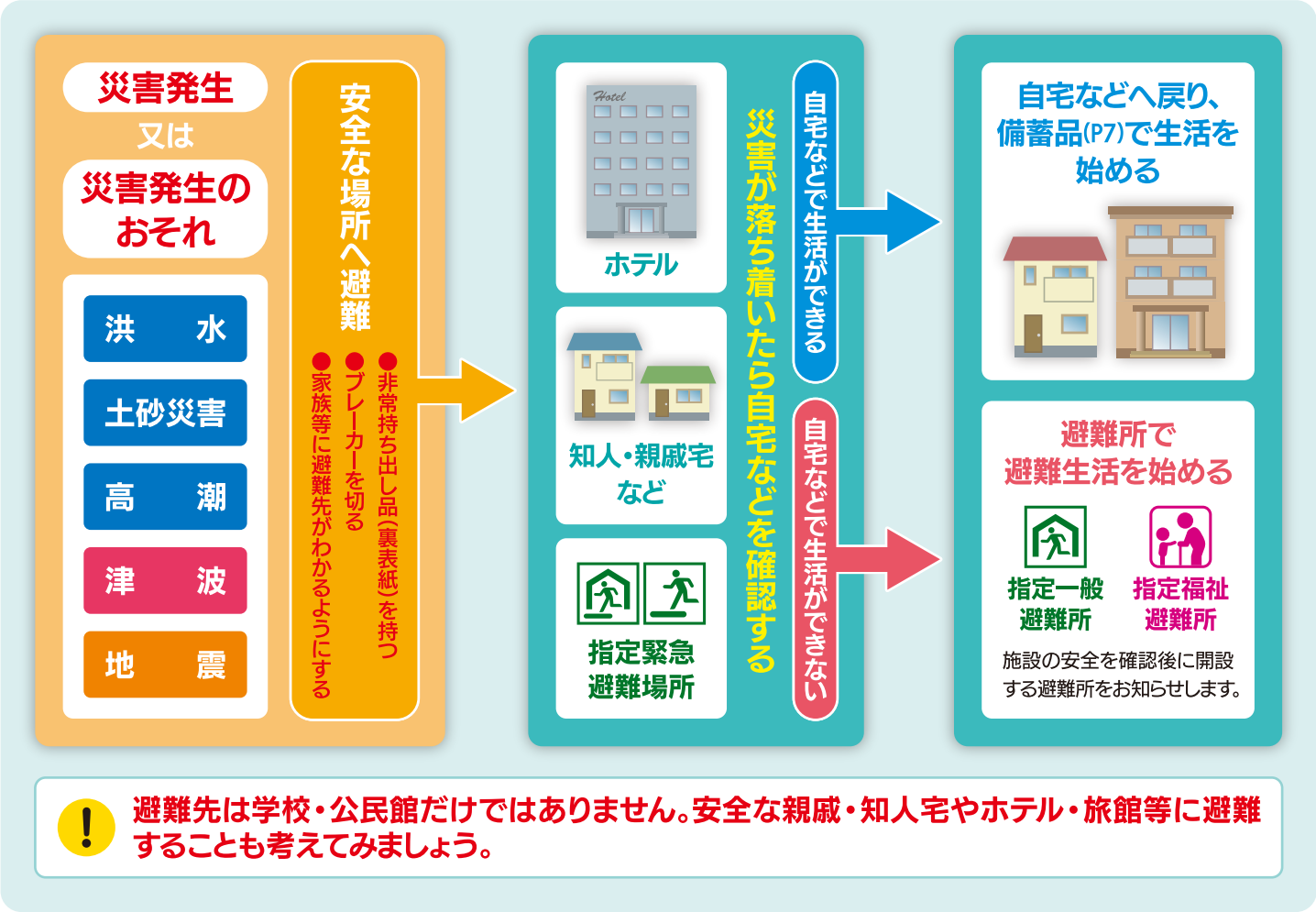
SNSの偽情報に注意

災害直後、SNS上では救助を求めたり、被害状況を知らせたりする偽情報や誤情報も拡散され、救命・救助活動に支障が出るなどの悪影響が生じることがあります。災害時には①偽・誤情報を発信しない、②拡散しない、③騙されないの3点に注意してください。



危険な場所から避難 安全な場所にいる方は避難する必要はありません

災害が発生又は発生するおそれがある場合、危険な場所にいる方は安全な場所に避難しましょう。



避難行動の分類

避難行動	避難先	あらかじめ行っておくこと	避難情報
緊急安全確保	安全とは限らないが、より身の安全が確保できる場所 ●上層階 ●崖から離れた部屋 ●近隣の堅牢な建物 相対的に安全な場所	●急激に災害が切迫した場合に備え、身の安全を確保するための行動を確認	警戒レベル5 緊急安全確保 ※津波は避難指示のみ
警戒レベル4までに必ず避難			
立退き避難	安全な場所 ●指定緊急避難場所 ●安全な自主避難先(知人宅や旅館等)	●避難先の確認及び避難経路の安全を確認 ●非常持ち出し品の確認	警戒レベル3 高齢者等避難 警戒レベル4 避難指示 ※津波は避難指示のみ
屋内安全確保	安全な自宅・施設等 ●安全な上層階へ移動 ●安全な上層階に留まる ※土砂災害と津波は、立退き避難が原則	●ハザードマップ等で自宅の災害危険性を把握し、安全を確認 ●孤立に備えた備蓄の準備等	警戒レベル3 高齢者等避難 警戒レベル4 避難指示

安全な避難のために



安全に避難するために、避難する場所をあらかじめ決めておき、避難するタイミングなどを家族で話し合い、マイ・タイムライン(P31～32)を作っておきましょう。



避難情報が発令されたときや、ご自身で危険を感じたときは早めに避難行動を開始しましょう。夜間や豪雨の中での避難は危険です。

助け合って避難しましょう

高齢者・病人

- 歩行の補助をするなど協力して安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、白杖を持った方の手には触れず、誘導者のひじあたりを軽く持ってもらい、半歩前をゆっくり歩く。



肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段の昇り降りでは2人以上の介助者が必要。車椅子の向きは、常に上階を向く姿勢で保持する。
- 介助者が1人の場合、ロープなどを利用し、協力して避難する。



耳の不自由な方

- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。
- 話すときは、マスクを外して口をはっきりと開け、相手にわかりやすいようにする。



ペットの避難を考えましょう

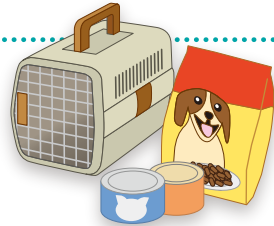
大規模な災害が起こったとき、ペットがともに安全に避難でき、一緒に暮らせるようにするためには、しつけをしておくなど日ごろからの心構えと備えが大切です。佐賀県や環境省のホームページ「ペットの災害対策」なども参考に考えましょう。

災害時の心構え

避難所には、動物が苦手な人やアレルギーを持っている人など様々な人がいるので、周りの人に配慮しましょう。

ペット避難用具・備蓄品の用意

食料、リードやキャリーバッグ等、避難先での飼育に必要なものを予め用意しておき、持参しましょう。ペット用の避難物資が届くまでには時間がかかる場合があるので、5日分(できれば7日分以上)は用意しておきましょう。



ペットのしつけと健康管理

ケージやキャリーバッグ等に慣れさせておき、決められた場所で排泄ができるようにしておきましょう。予防接種や寄生虫の駆除をしておきましょう。



ペットの災害対策について

佐賀県 ペットの災害



人とペットの災害対策ガイドライン

環境省 ペットの災害



■ 備蓄品

災害復旧までの数日間（最低3日分、できれば7日分）自ら生活できるように準備しておきましょう。被害を受けにくく、非常時でも取り出しやすい場所に保管しておくとい良いでしょう。

食料

- ☐ 飲料水（1人1日3リットルを目安）
- ☐ 米（缶詰やレトルトのご飯なども便利）
- ☐ 缶詰や菓子類
- ☐ 粉・液体ミルク・離乳食



燃料・日用品など

- ☐ カセットコンロ
- ☐ 予備のガスボンベ
- ☐ 毛布または寝袋
- ☐ ブルーシート
- ☐ なべ、割り箸
- ☐ 衣類
- ☐ 新聞紙
- ☐ 簡易・携帯トイレ
- ☐ 布製ガムテープ
- ☐ キッチン用ラップ
- ☐ モバイルバッテリー
- ☐ ポータブル発電機

■ ローリングストック（循環備蓄）

備蓄食料、水などの保存期間が切れる前に消費し、その分だけを補充して常に一定量のストックを保つことを「ローリングストック」といいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎます。

1〜3日目

冷蔵庫や冷凍庫の食材を活用する

ご飯や食パン、野菜などを冷凍しておけば自然解凍により食べる事も可能です。停電のときは、クーラーボックスや保冷剤等を利用して食材を保存しましょう。

4〜7日目

ローリングストック法で備蓄した非常食を活用する

●備蓄しておくといなもの

缶詰め、レトルト食品、カレー、パックご飯、乾麺、フリーズドライ食品

食べながら備えるローリングストック法とは

ローリングストック法は、保存食を日常的に消費し、食べた分だけ買い足していく備蓄方法です。日頃から食べ慣れている賞味期限が1年程度のものを意識的にストックして、月に1、2度食べるときに防災について考えるきっかけにしましょう。

②と③を定期的に繰り返して備蓄を一定に保つ

① 1食分多めに買う

③ 食べた分を買い足す

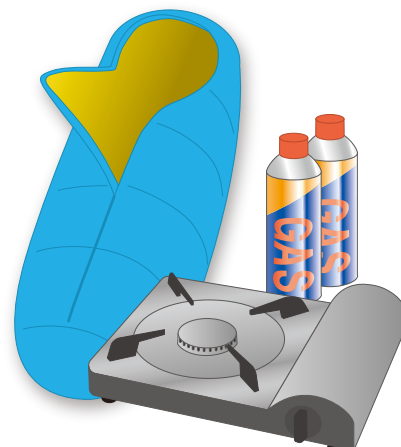
② 1食分を食べる

■ 備えない防災 フェーズフリー

フェーズフリーとは、「身の回りにあるモノやサービスを、日常時はもちろん非常時にも役立てることができる」という考え方です。

日常・非日常、どちらの場面でも便利に使えるモノやサービスを積極的に導入することで、普段の生活が同時に災害への備えとなります。

例えば、アウトドア用品やカセットコンロなどは非常時にすぐに活用できる備品です。普段のウォーキングコースに避難所へのルートを組み込むこともフェーズフリーです。このほかにも、普段の生活で活用できて非常時の際にも役立てられることを探してみましょう。



■ 外国人住民に向けた情報提供

佐賀県災害多言語支援センター

大規模災害が発生した場合、佐賀県災害多言語支援センターで、外国語での災害情報発信と災害相談対応を実施します。災害に備え、事前の登録をお願いしていますので、知り合いの在住外国人の方にもぜひ周知をお願いします。

- 電話番号 0952-25-7921
- メール info@spira.or.jp
- 佐賀県国際交流協会(SPIRA)ホームページ <https://www.spira.or.jp/>
- 佐賀県国際交流協会(SPIRA)Facebook <https://www.facebook.com/spira.saga> ID: spira.saga
- さが多文化共生センターLINE



SPIRA website



SPIRA Facebook



さが多文化共生センター LINE

NHKワールドジャパン

テレビ・ラジオ・インターネットを使って、外国語でニュースを伝えています。News is conveyed in foreign languages using television, radio, and the Internet.



iPhoneをご利用の方



Androidをご利用の方

災害情報提供アプリ Safety tips

観光庁監修の外国人旅行者向け災害時情報提供アプリです。This is an app that provides disaster information for foreign travelers supervised by the Japan Tourism Agency.



iPhoneをご利用の方



Androidをご利用の方

女性に配慮した避難所環境づくり

東日本大震災や熊本地震の避難所において、男女のニーズが十分理解できていないことや、プライバシーの配慮不足、安全確保などが課題となりました。このため、避難所運営においては、女性のより積極的な参画が必要となります。

① プライバシーなどに配慮した避難所設計と運営

- 一人暮らしの女性やお年寄り、体の不自由な方、乳幼児のいる家庭など被災者に応じて、間仕切りを工夫するなど、プライバシーの確保。
- 男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など、女性に配慮した設備配置。

② 避難所生活における安全性の確保

- 声かけの実施など、女性や子どもを一人で行動させない仕組みづくり。
- 屋外トイレ周辺の夜間照明の設置や巡回パトロールの実施など、防犯対策の徹底。

③ 女性などの声が通りやすい環境づくり

- 避難所運営組織に女性に関わるなど運営体制等の協議に参画したり、女性が意見を出しやすい仕組みづくり。

目指す避難所環境とは

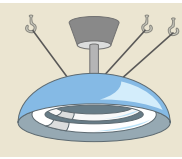
■ 屋内の安全対策

地震で建物が倒壊しなくても、大きな家具の転倒、家電製品の落下、ガラスの飛散などにより大きなケガをしたり逃げ場をふさがれたりします。事前に家具などの固定や配置方法の工夫を行い、屋内の安全性を高めておきましょう。



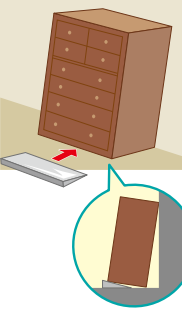
収納に工夫を

- タンスや本棚などにもものを入れる場合は、重いものは下に、軽いものは上に収納するようにしましょう。
- 本棚は隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく空間を作らないようにしましょう。



照明器具の補強を

- 吊り下げ式蛍光灯は、チェーンなどで止めておきましょう。



置き方に工夫を

- 家具の下部の前方に転倒を防止するための板などを入れ、壁にもたれ気味にしましょう。
- 出入口や通路には、なるべく荷物を置かないようにしましょう。
- 就寝場所に家具が倒れてこないように、配置の工夫をしましょう。

地震のときに家具などが就寝部分に倒れたり、避難経路をふさぐ位置に配置しないようにしましょう。

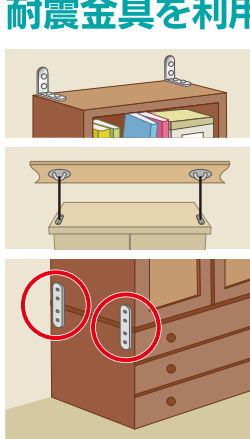


正しい配置



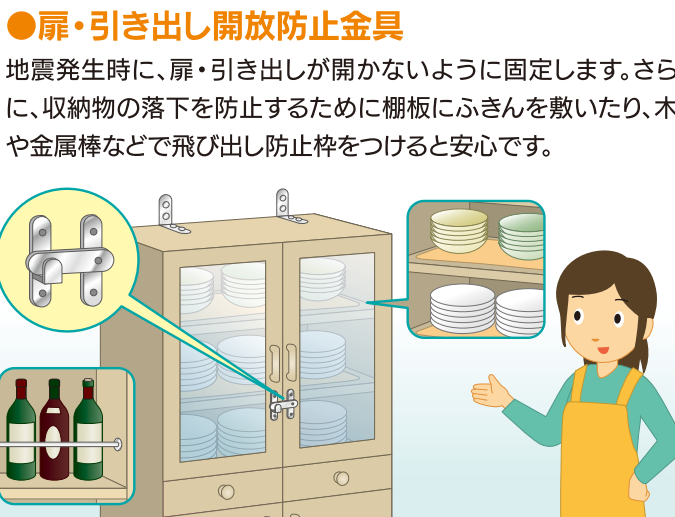
ガラスの飛散防止を

- 割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。



耐震金具を利用しよう

- 転倒防止金具**
壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、天井などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。
- 重ね留め用金具**
重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎましょう。

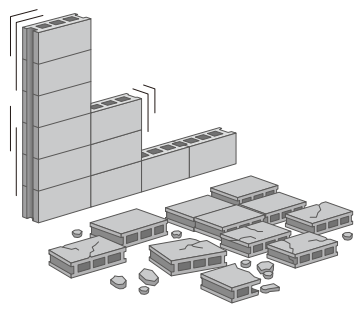


●扉・引き出し開放防止金具

地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふきを敷いたり、木や金属棒などで飛び出し防止枠をつけると安心です。

■ 屋外の安全対策

地震の揺れにより、ブロック塀などが崩れてケガをしたり、ガスボンベなどが倒れるなどした場合に、火災やケガにつながる場合があります。事前に家の周りを点検し、屋外の安全性を高めておきましょう。



壁・塀

- 壁や塀にひび割れなどがなければ、腐ったりしていないか点検しましょう。
- ブロック塀は、地震の揺れにより崩れる可能性があるため、できれば安全な生垣などにしましょう。



ガスボンベ

- ガスボンベは、動かないように壁に固定しましょう。
- ガスボンベの周りには、物を置かないようにしましょう。

■ 耐震診断・改修のすすめ

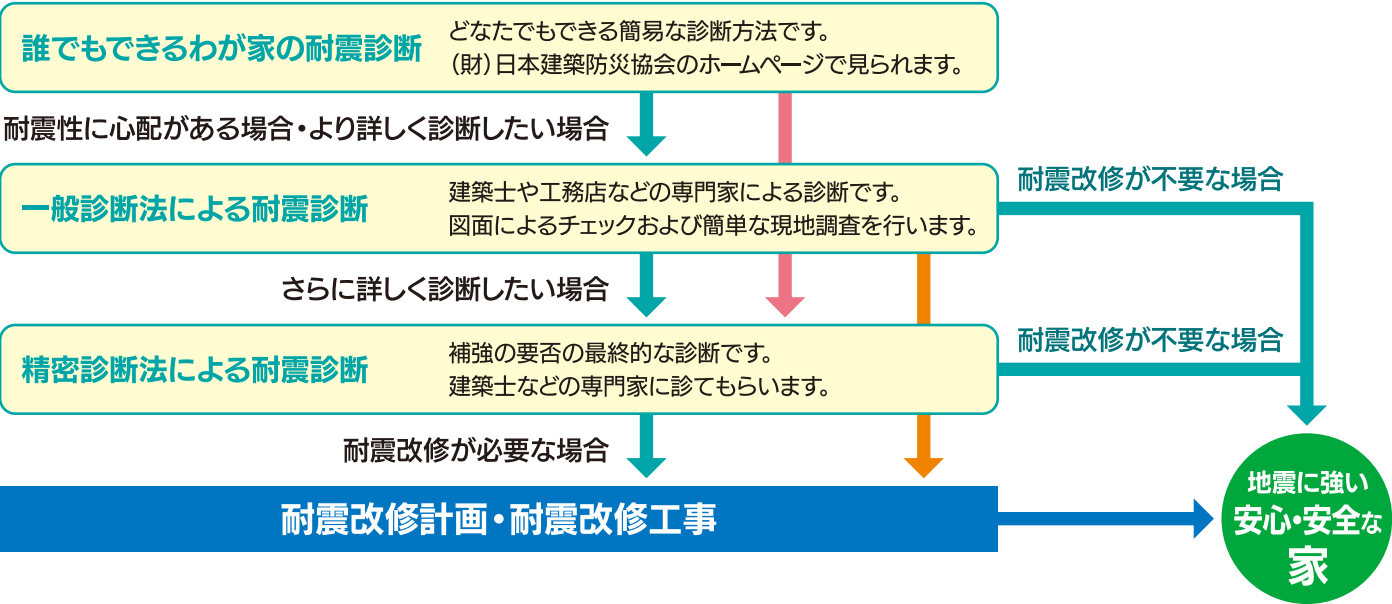
地震対策の第一歩は、わが家の耐震性能を知ることです。大きな地震があってもわが家は安全なのか、耐震診断を受けて確かめましょう。耐震性の判断には建築の専門的知識が必要です。外見に異常が見られなくても、専門家による耐震診断を受けることが必要です。



進んで耐震診断を行い、補強が必要な箇所の耐震改修を実施しましょう！

昭和56年5月以前に建てられた木造住宅は、ぜひ耐震診断を行ってください。昭和56年5月以後に建てられたものでも、ご心配なら、耐震診断を行うことをお勧めします。
※詳しくは、(財)日本建築防災協会のホームページをご覧ください。 <https://www.kenchiku-bosai.or.jp/>

▶ 耐震診断から耐震改修工事までの流れ



現在、玄海町では、木造住宅の耐震診断費、耐震改修費、ブロック塀等撤去費の補助事業が創設されています。申請をする前に生じた費用については、補助の対象外となりますので、必ず事前に相談、申請を行ってください。

木造住宅耐震診断費補助事業について

●平成29年度から、町内にある木造住宅の耐震診断を行われる方を対象に補助事業を創設しました。

木造住宅耐震診断費補助事業のご案内

<https://www.town.genkai.lg.jp/soshiki/8/1309.html>



木造住宅耐震改修事業費補助事業について

●平成30年度から、木造住宅耐震改修補助事業を開始しました。

木造住宅耐震改修事業費補助事業のご案内

<https://www.town.genkai.lg.jp/soshiki/8/2540.html>



ブロック塀等撤去費補助事業について

●令和2年度から、町内にあるブロック塀等の撤去を行われる方を対象に、補助事業を創設しました。

ブロック塀等撤去費補助事業のご案内

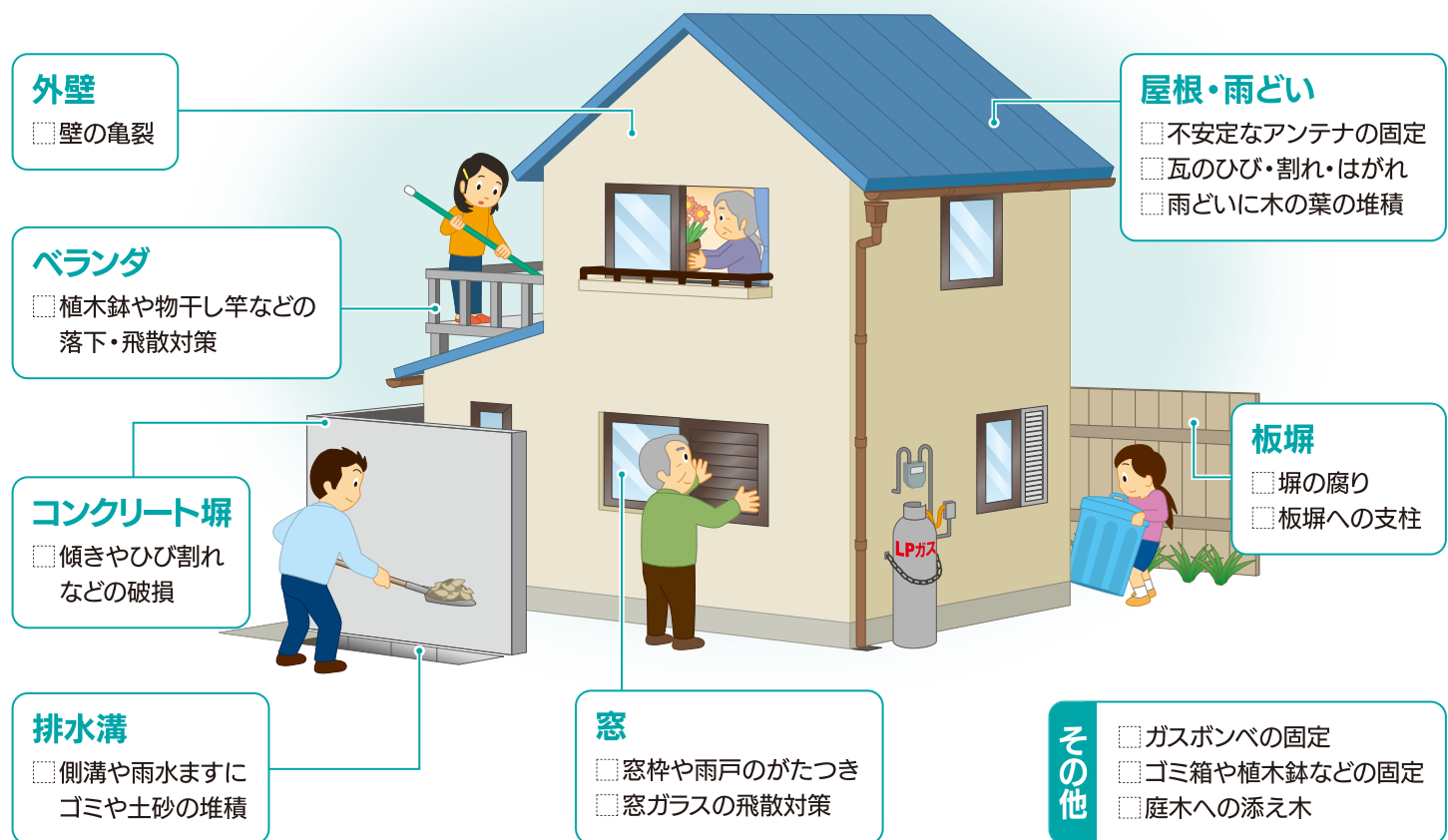
<https://www.town.genkai.lg.jp/soshiki/8/34484.html>





家の周りの片付け

風水害による建物の被害を抑えるため、下のイラストを参考に、点検・修理・補強を行っておきましょう。



家庭でできる浸水対策

浸水が浅い場合には、プランターや長めの板(テーブルでも可)などを、ビニールシートに包んで設置する等の方法があります。



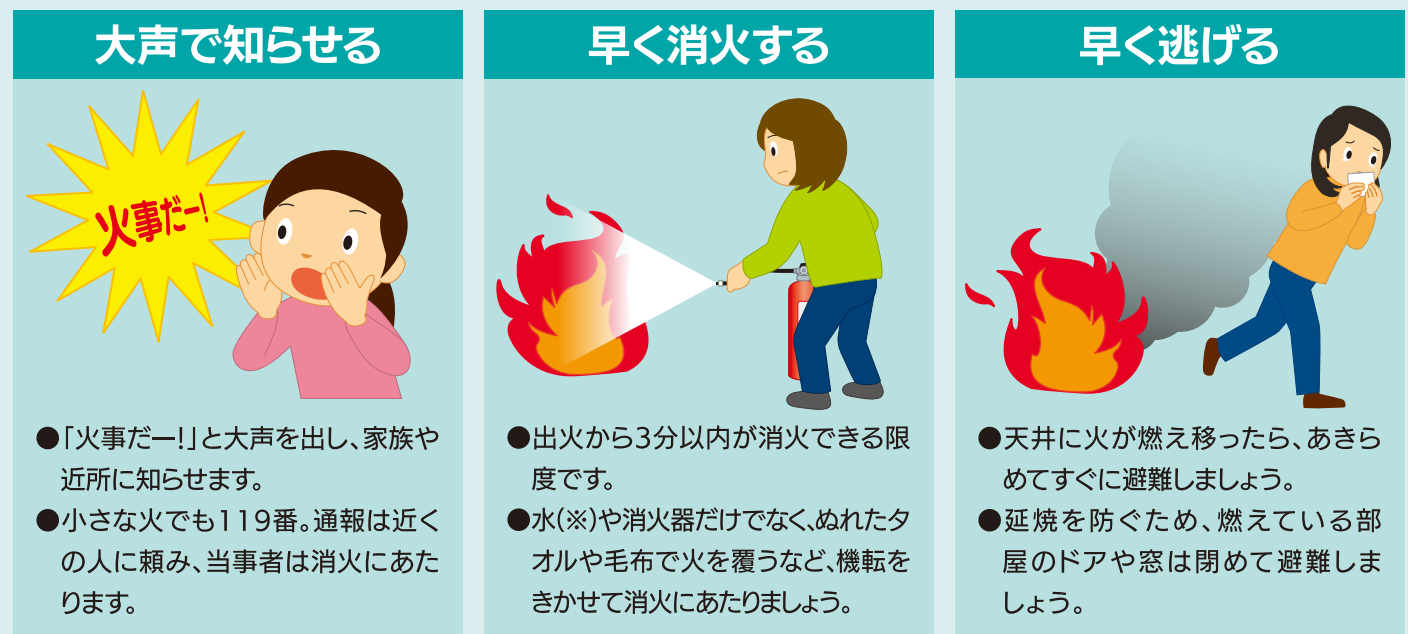
台風時の停電への備え

台風時には被災状況によって停電が長期化することがあります。停電や停電に伴う断水に備えて、懐中電灯、防寒具、飲料水などを準備しておきましょう。



火災では初期対応が非常に重要となります。消火活動では、個人でできることは限られていますが、地域の住民全体が初期対応を身につけることで、効果は一層高まります。地域の住民全体で訓練するようにしましょう。

火災の初期対応3原則



※油火災には「水」は厳禁。消火器やぬれたタオルなどで鍋を塞ぎ空気を遮断して消火(窒息消火)しましょう。

火災防止の心得

- 寝タバコはしない、させない習慣を。放置やポイ捨ても厳禁。
- ストープには燃えやすい物を近づけない(カーテン・洗濯物に注意)。給油や移動は必ず火を消してからにしましょう。
- 火をつけたままコンロのそばから離れない。
- コンセントはたこ足配線をやめ、ホコリを取り除く。
- 家の周囲に燃えやすい物を置かない。放火させない環境づくり。
- マッチやライターを子どもの手の届く場所に置かない。

住宅用火災警報器を設置しましょう

平成21年6月1日からすべての住宅(寝室)に設置が義務付けられています。また、機能維持のため約10年での交換が推奨されています。

住宅用火災警報器とは?

火災時に発生する煙や熱を自動的に感知し、警報音や音声で、火災の発生をいち早く知らせしてくれる装置です。



設置場所の例

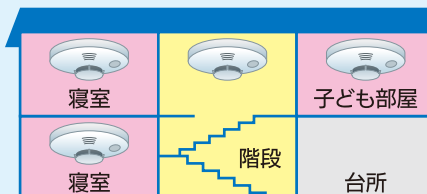
●1階建ての例

普段就寝に使われている部屋に設置します。



●2階建ての例

寝室がある階の階段に設置します。



玄海町に被害をもたらす地震としては、内陸部の活断層による地震があります。特に玄海町に近い竹木場断層による地震では、震度6強以上の揺れが想定されます。いつ起きるかわからない地震に備えておきましょう。

- 地震発生前に
行うこと**
- ▶ 危険な場所の確認
 - ▶ 避難場所の確認
 - ▶ 避難経路の確認
 - ▶ 防災訓練に参加 等

事前に確認

- 情報の収集方法 P3, 4
- 避難に備えて P5, 6
- 地震について P13, 14
- 地震ハザードマップ
竹木場断層を震源 P15, 16
玄海町直下を震源 P17, 18
- 避難場所等一覧 P33, 34
- 非常持ち出し品 裏表紙

**地震が発生!!
身の安全確保!!**

- 地震発生後に
行うこと
避難行動**
- 避難時の注意点**
- ▶ 出口を確保する
 - ▶ 門や塀には近寄らずに避難する
 - ▶ 頭上からの落下物に注意する 等

これ避難

- 避難に備えて P5, 6
- 地震発生時の行動 P19, 20
- 避難場所等一覧 P33, 34

地震発生のしくみ

地球の表面は、プレートと呼ばれる厚さ数10kmの岩盤で覆われています。プレートは1年に数cmくらいの速さで動いており、この動きが地震を発生させるエネルギーとなります。

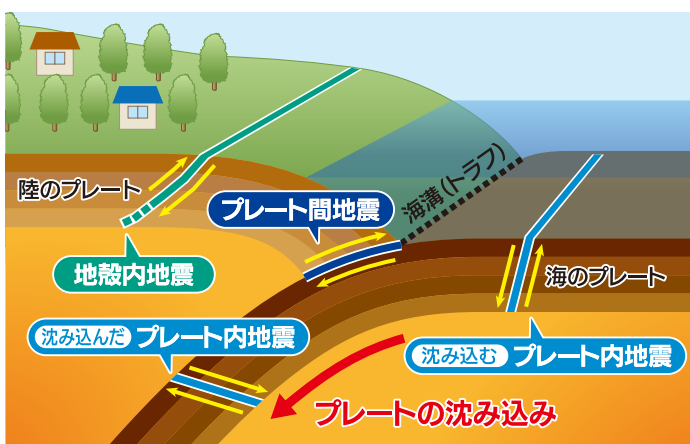
地震の起こり方は大きく分けて「内陸型地震」「海洋型地震」の2つに分類され、発生メカニズムの違いによって以下の3タイプに分けられます。

内陸型 地殻内地震(活断層型地震)

内陸部の比較的浅い地殻に生じる、いわゆる直下型の地震で、「活断層型地震」とも呼ばれています。プレート運動によって生じる圧縮力によって蓄積されたひずみエネルギーを解放するため、浅い陸のプレートで断層運動を生じるもので、プレート間地震に比べて規模は小さくなりますが、発生源に近いので揺れが大きくなります。また、ひずみの蓄積するスピードがプレート間地震に比べてはるかに遅いため、特定断層における地震の発生間隔は数千年から数万年とされています。

海洋型 プレート間地震(海溝型地震)

日本列島の太平洋岸のプレート境界で発生する地震で、「海溝型地震」とも呼ばれています。規模の大きなプレート間地震の発生間隔は、数十年から数百年と比較的短く、発生源が海底下の浅いところにあるため津波を伴う場合があります。



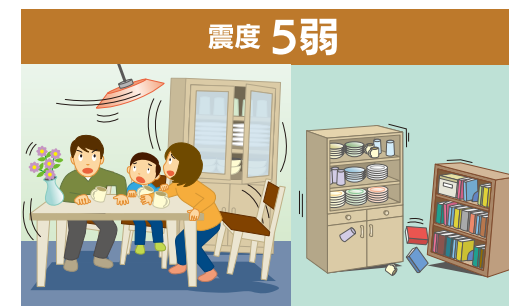
海洋型 プレート内地震

海のプレート内部で発生する地震です。海のプレートが陸のプレートの下に沈みこんでいる部分のうち、深部が破壊されることにより発生します。

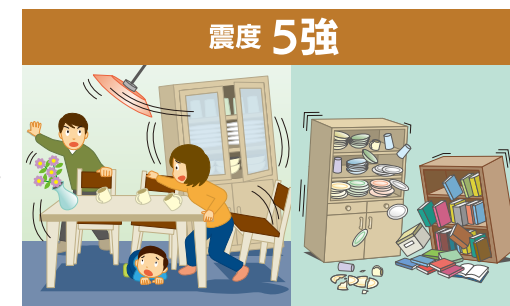
震度と揺れの状況



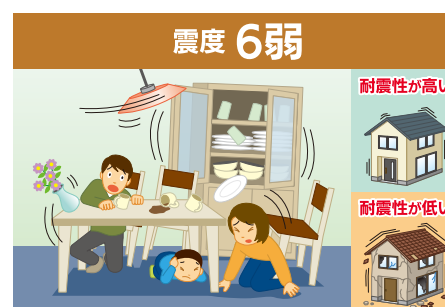
- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が倒れることがある。



- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



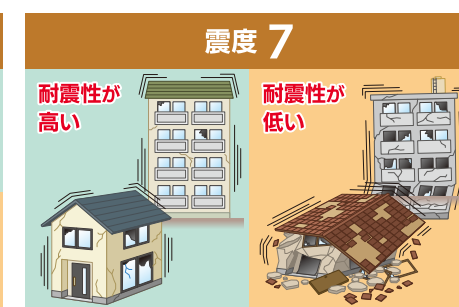
- 物につかまらないうと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



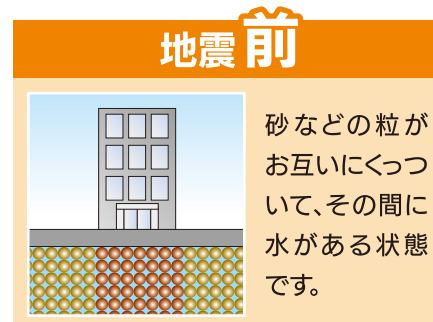
- はわなないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

液状化にも注意が必要です 液状化とは?

海岸沿いや川沿いの低地では、地下水位が高く、砂地盤などがゆるく堆積している所も多くあります。地震により、激しく揺られると、土の粒子が水と混ざり合って、一時的に液体のようになります。これを液状化現象といいます。



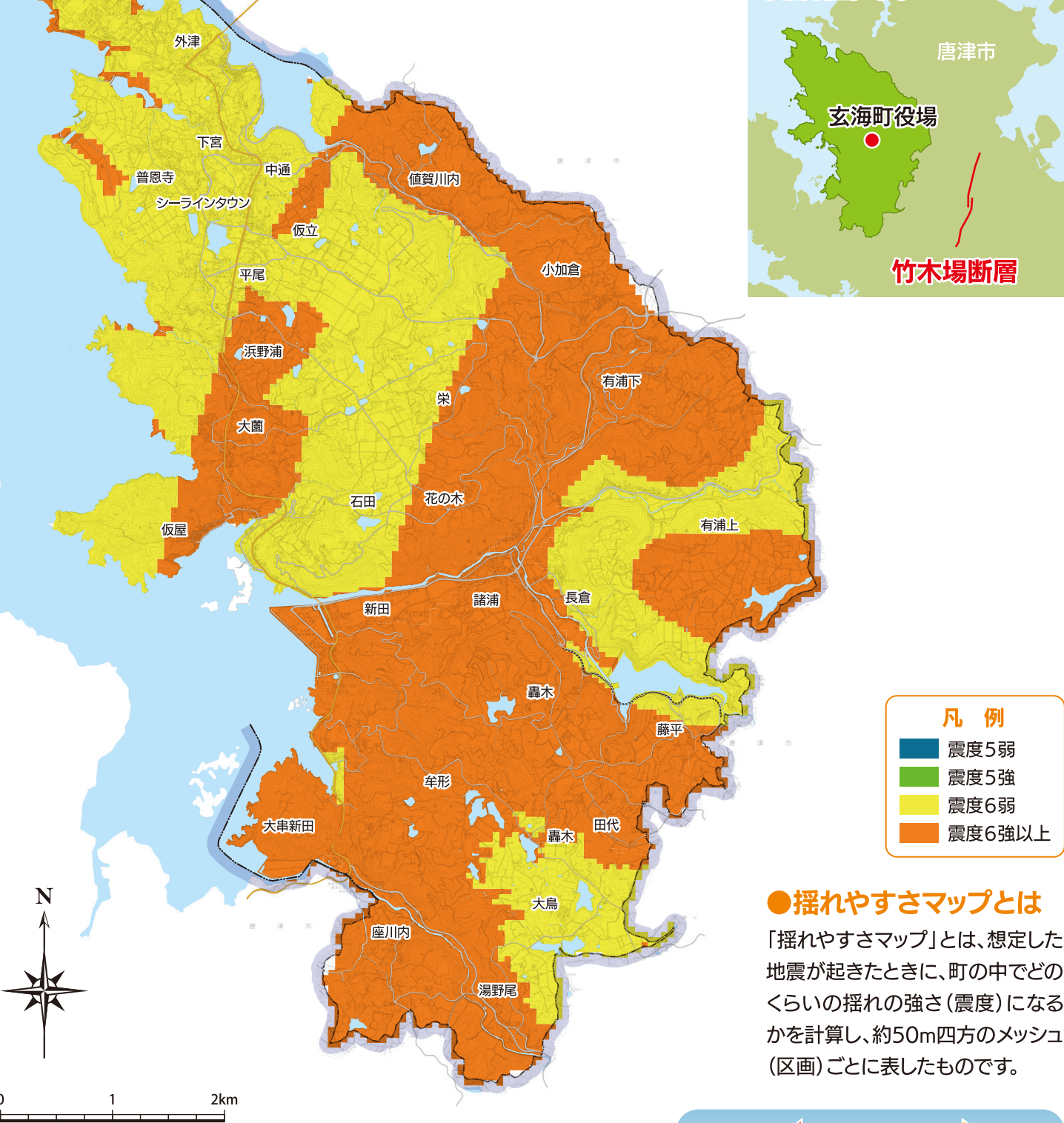
液状化がおこると、
次のような被害が
発生します



- ① 地盤の支持力が低下することにより発生する、**建物等の沈下や傾斜**
- ② **噴砂** (水と砂が地中から噴き上げてくる現象) などによる被害
- ③ 地下に埋設された水道管・ガス管・電線の損傷による、**ライフラインの寸断**

揺れやすさマップ 竹木場断層を震源とした場合

玄海町に大きな影響を及ぼす竹木場断層が活動した場合を想定しています。

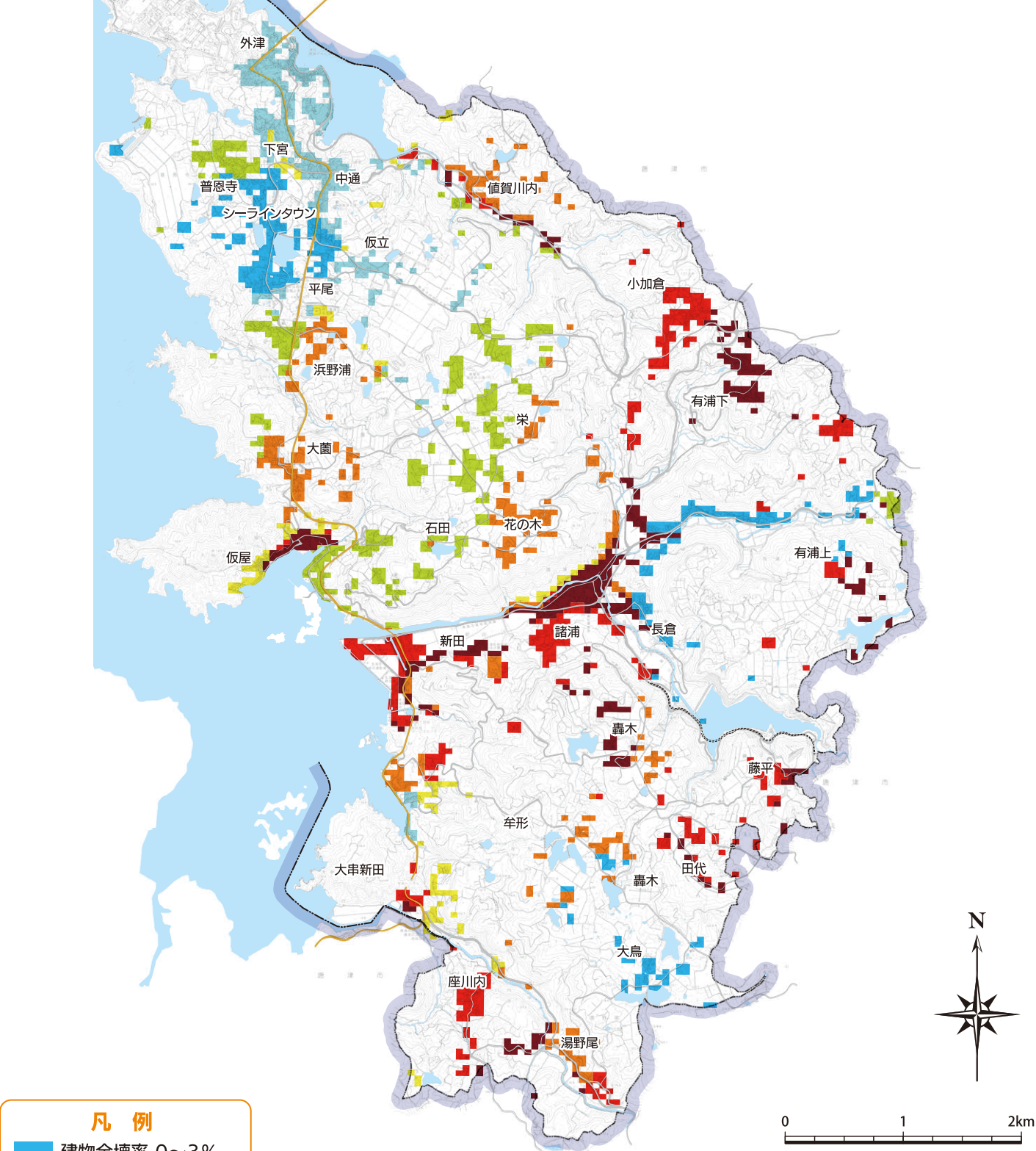


●マグニチュードと震度

“マグニチュード”とは、地震そのものの大きさ(地震の規模)を表す単位です。“震度”とは、実際の揺れ方の強弱を段階的に表したもので、地震の規模ではありません。マグニチュードが小さくても、震源に近ければ震度は大きく、また、その震度は地盤の条件によっても異なります。

危険度マップ 竹木場断層を震源とした場合

玄海町で特に震度が大きくなる「竹木場断層」を震源とした地震が発生した場合の建物全壊率を表しています。

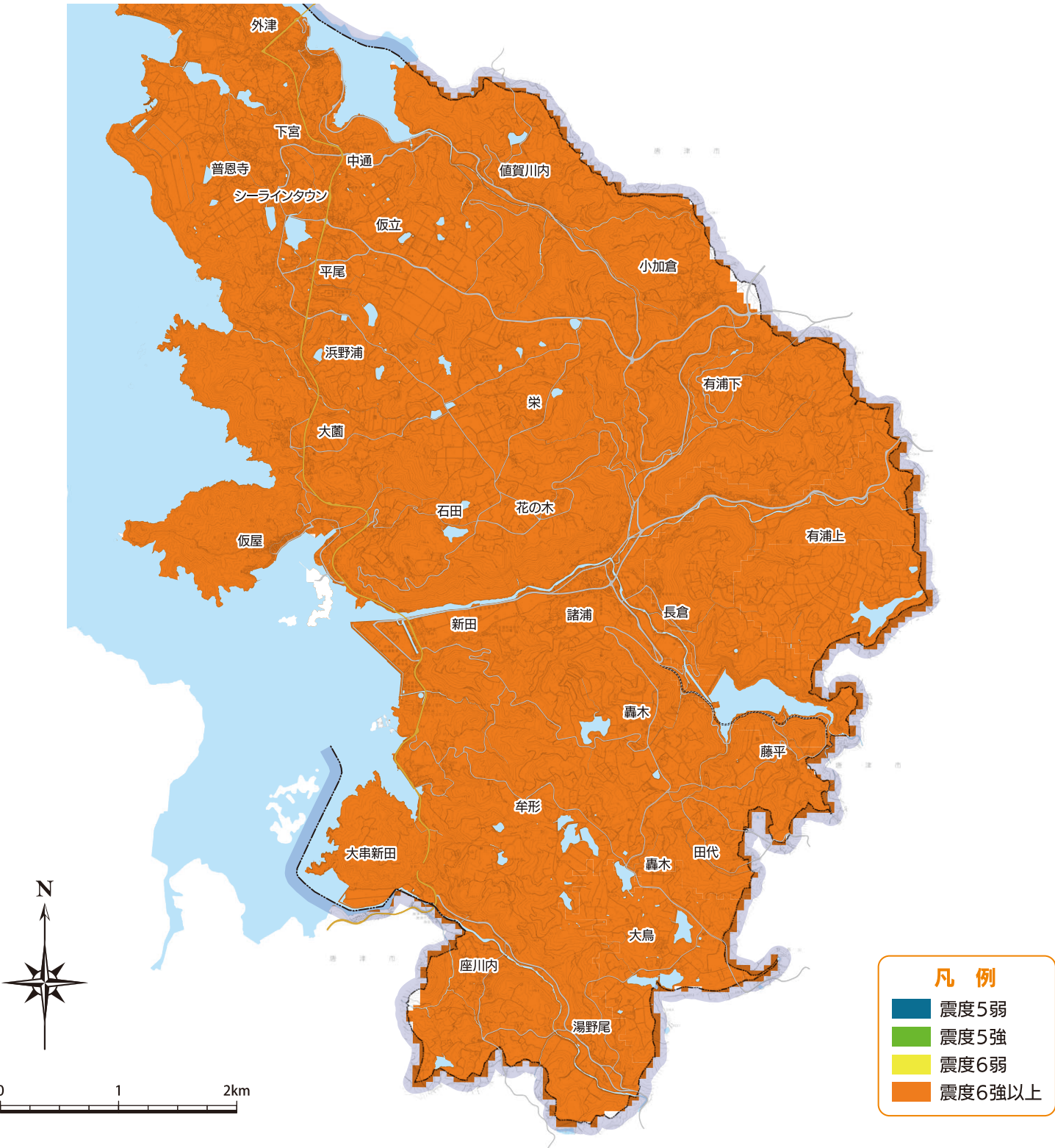


震源	竹木場断層
震源の深さ	3km
地震の規模	マグニチュード6.9
断層の長さ	約5km
断層までの距離	(町役場から)南東に約5km

※竹木場断層による地震は近年発生していません。

揺れやすさマップ 玄海町直下を震源とした場合

玄海町の直下を震源として地震が起きた場合を想定した「全国どこでも起こりうる直下の地震(マグニチュード6.9)」を想定地震としています。

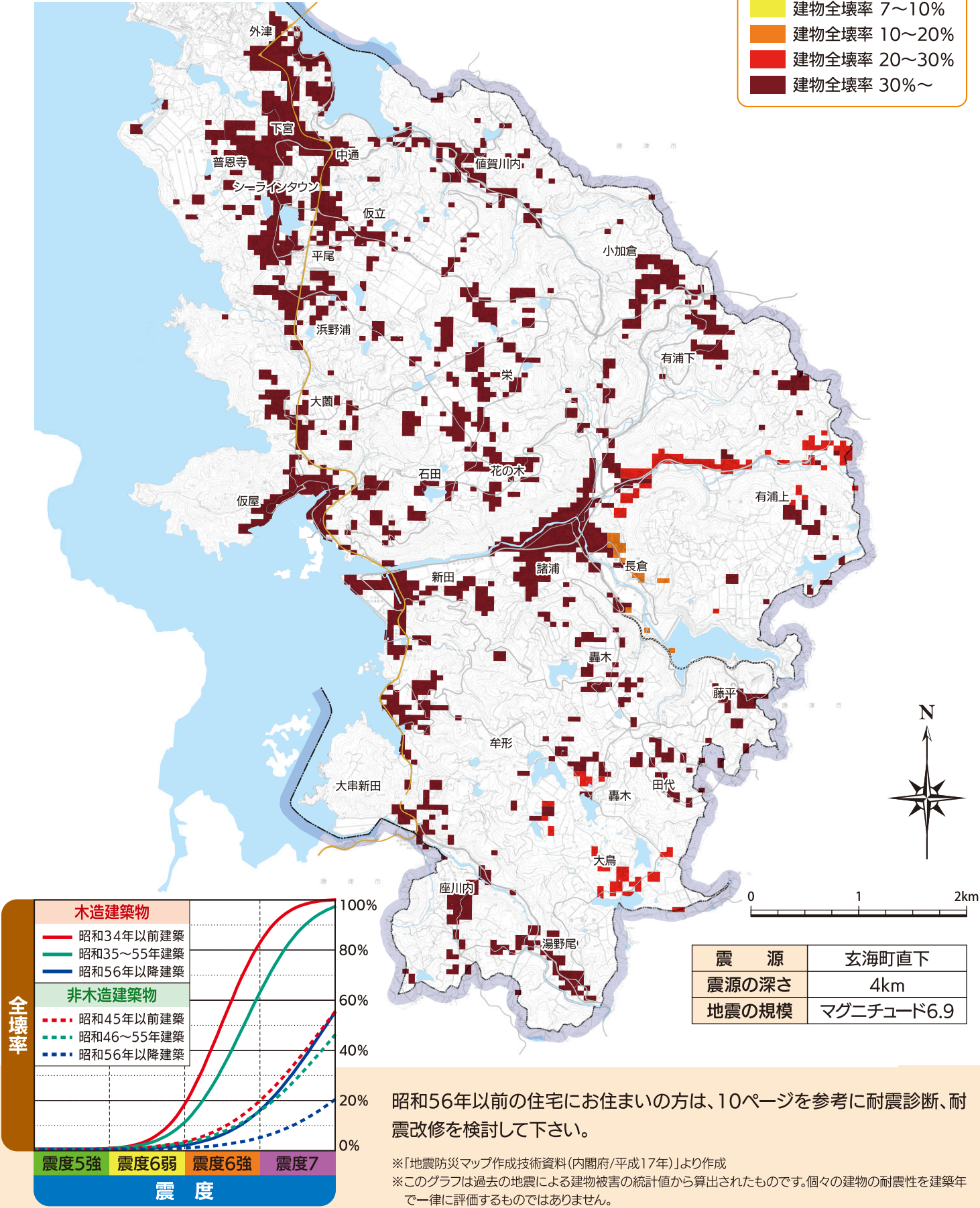


震度と建物全壊率の関係

右のグラフは過去の地震による建物被害の統計から、震度と建物(構造・年代別)の全壊率の関係を導き出したものです。古い耐震基準をもとに建てられた建物ほど全壊率が高く、特に震度6弱～6強から急激に高くなり始めます。震度7では昭和56年5月以前の旧耐震基準により建てられた木造建築物の全壊率は90%以上になると想定されます。

危険度マップ 玄海町直下を震源とした場合

玄海町直下を震源とした地震が発生した場合の建物全壊率を表しています。



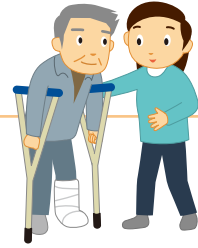
地震が起きたとき、とるべき行動

地震発生時には、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。また、日本海沖で地震があったときは、**強い揺れ**を感じなくても、**津波が来襲することがあります**。津波警報や津波注意報の発表を聞いたら、直ちに高台等に避難してください。

緊急地震速報

- **地震発生**
- **1～2分後** **安全の確認**
- **3分後** **避難の準備**
- **5分後** **避難の開始**
- **10分後** **情報の入手**
- **～3日後** **避難施設へ**
- **避難生活では**

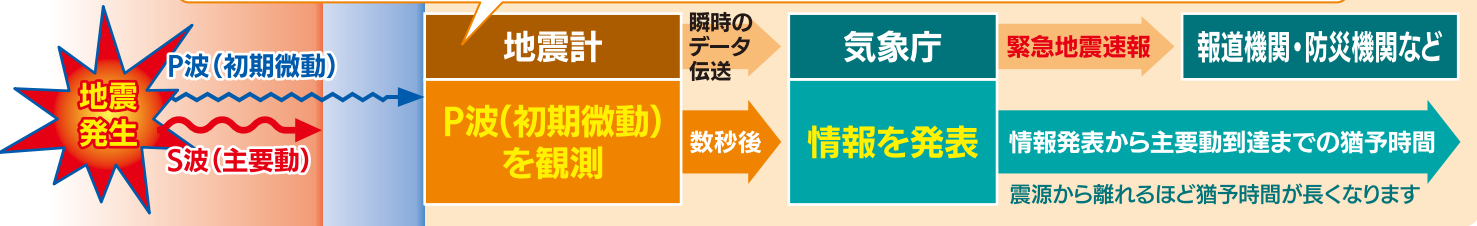
- 周囲の状況に応じて、あわてずに身の安全と逃げ道を確保する。
- 揺れがおさまったら火の元を確認し、出火している場合は初期消火をする。
- 靴を履き、ガラス片などから足を守る。
- 非常持ち出し品を手元に用意する。
- 家族の安否を確認する。
- テレビ、ラジオなどで状況を確認する。
- 電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉める。
- 家屋倒壊などのおそれがある場合には避難する。
- 海岸にいるときに強い地震が発生した場合や、揺れを感じなくても津波警報が発表された場合には、直ちに海岸から離れ、急いで安全な場所に避難する。
- 近所の安全を確認、必要に応じて、消火・救出活動に協力する。
- 安全な場所に移動してから、正確な情報を確認する。
- 間違った情報やうわさ、デマに惑わされないように注意する。
- 生活必需品は備蓄でまかなう。
- 壊れた家には入らない。
- 引き続き地震に警戒する。
- 自主防災組織を中心に行動する。
- 集団生活のルールを守る。
- 助け合いの心をもって行動する。



緊急地震速報を見聞きしたら…

「緊急地震速報」は、地震によって大きな被害が出ると予想される地域を対象に、揺れが始まる前にテレビ・ラジオ・防災行政無線や携帯電話(対応機種)などからみなさんに伝えられます。この「緊急地震速報」を見聞きしてから数秒～数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。

震源近くで地震(P波)を検知すると、直ちに緊急地震速報を発信するための処理を開始します



**車で避難
しないように!**

地震発生時は、消防車などの緊急車両の通行を確保することが大切です。みんなが車を使って避難すると、緊急車両や避難する人たちの邪魔になり、混乱を大きくしてしまいます。山間部の土砂災害危険地域や歩行困難な高齢者や病人のいる家族など、どうしても車を使わなければならない場合以外は、徒歩で避難しましょう。

屋内にいたら

自宅では

- テーブルやベッドの下などにもぐって身を守る。適当な場所がないときは、手近のクッションなどで頭を保護する。
- 料理中は、可能ならすぐに火を消す。キッチンには食器棚や冷蔵庫など危険が多いため、できるだけ早く離れる。
- 大きな揺れがおさまったら、すぐにドアや窓を開けて逃げ道を確保する。

デパート・スーパーでは

- 商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意する。柱や壁際に身を寄せ、手荷物で頭を守る。
- あわてて出口に殺到するとパニック状態になることもあり危険。店員の指示に従って行動する。



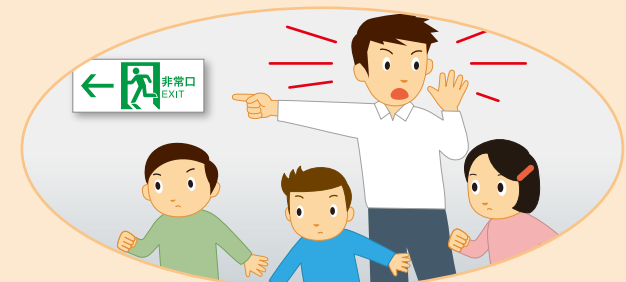
学校・勤務先では

〈学校にいるとき〉

- 先生や校内放送の指示に従う。
- 教室にいるときは、すぐ机の下にもぐり、机の脚をしっかりと持つ。
- 本棚や窓から離れ、安全な場所に移動する。

〈職場にいるとき〉

- 窓際やロッカー、資料棚などから離れて、机の下などに入り身を守る。
- 揺れがおさまったらガス湯沸かし器などのスイッチを切るなど、火元を確認する。



屋外にいたら

路上では

- 手荷物などで頭を守り、広場などへ移動する。
- 繁華街ではガラスや看板などの落下物に注意。住宅街ではブロック塀や門柱から離れる。
- 自動販売機の転倒にも注意する。
- 落ちるおそれを想定して、橋からはすぐに避難する。



車の運転中は

- 急ブレーキは事故のもと。徐々にスピードを落とし、道路の左側に停止してエンジンを切る。
- 揺れがおさまるまでは車外に出ず、カーラジオなどで情報を確認する。
- 車を離れるときは車検証など貴重品を持ち、キーはつけたままでロックはしない。



海岸・がけ付近では

- 海岸にいたら直ちに高台や近隣の高い建物や、指定の避難場所へ逃げる。
- がけ付近にいたら、崩れる危険性のある場所からすぐに離れる。





玄海町では、日本海側で発生する地震に伴って、津波の来襲が想定されています。

津波発生前に 行うこと

- ▶ 危険な場所の確認
- ▶ 避難場所の確認
- ▶ 避難経路の確認
- ▶ 防災訓練に参加 等

事前に確認

- 情報の収集方法 P3, 4
- 避難に備えて P5, 6
- 津波について P21
- 避難場所等一覧 P33, 34
- 非常持ち出し品 裏表紙

津波警報・注意報が発表!!

地震に伴う強い揺れ又は長時間ゆっくりとした揺れを感じた場合は、気象庁の津波警報や町からの避難指示の発令を待たずに避難

津波発生後に 行うこと

避難行動

避難時の注意点

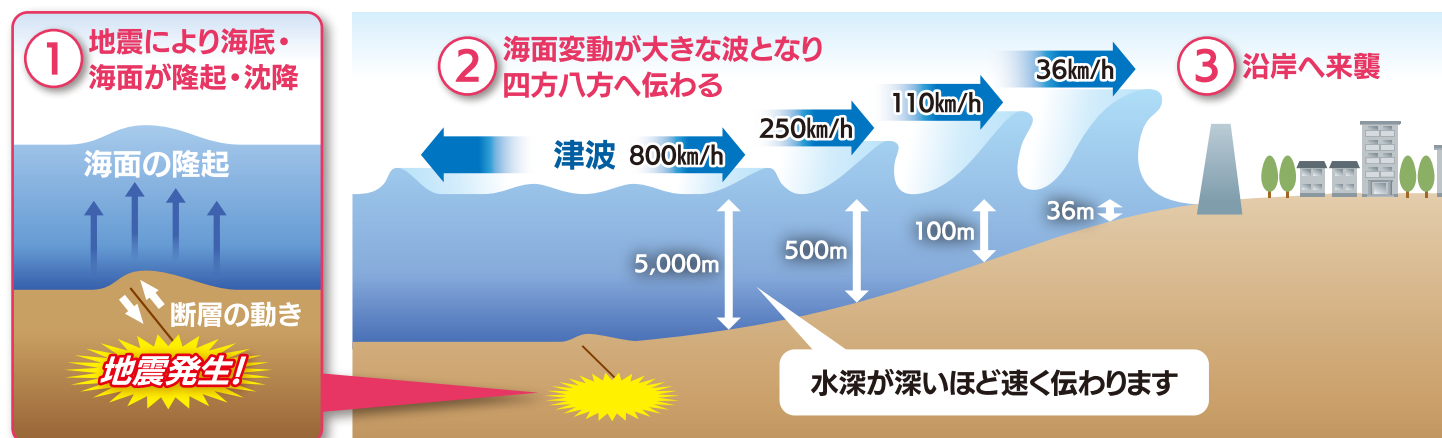
- ▶ 海から離れ、ただちに高い安全な場所へ
- ▶ 車は使わず、原則徒歩で避難
- ▶ 津波警報・注意報解除まで避難を続ける 等

これ避難

- 避難に備えて P5, 6
- 津波からの避難 P22
- 避難場所等一覧 P33, 34

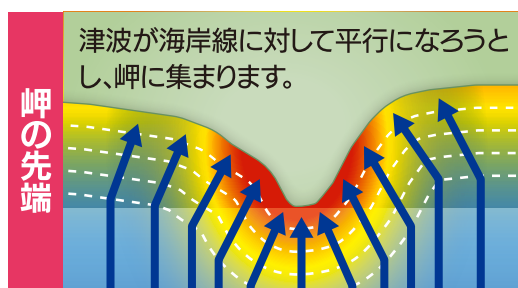
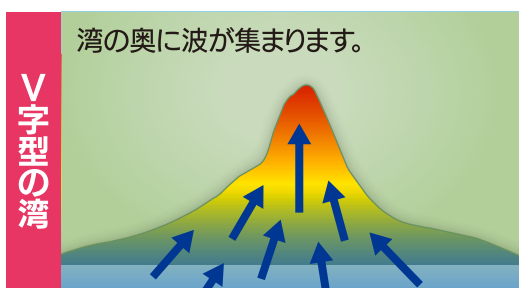
津波の発生と伝わり方

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝わる現象が津波です。また、繰り返し来襲するので、津波警報等が解除されるまで、避難を継続しましょう。



地形による津波の増幅

津波の高さは、海岸付近の地形によって大きく変化します。このため、所によっては予想される津波の高さより高い津波が来ることがあります。



津波に関する警報と注意報

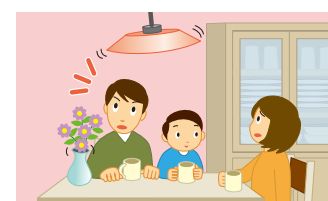
津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発表されます。

	発表される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (予想される津波の高さ区分)	巨大地震の場合の発表		
大津波警報 (特別警報に位置付け)	10m超(10m<h*) 10m(5m<h≤10m) 5m(3m<h≤5m)	巨大	沿岸部や河川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	● 木造家屋が全壊・流失します。 ● 人は津波による流れに巻き込まれます。
津波警報	3m(1m<h≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!	● 標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。 ● 人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m(0.2m≤h≤1m)	(表記しない)	海岸堤防等が無い地域については、ただちに立退き避難をしてください。 海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。 津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	● 海の中では人は速い流れに巻き込まれます。 ● 養殖いかだが流出し、小型船舶が転覆します。

※ h: 予想される津波の最大波の高さ

津波からの避難

津波発生時には、以下のことに気をつけて、落ち着いて行動しましょう。



小さな揺れでも 油断禁物

たとえ小さな地震でも、津波が発生する危険性があります。



津波避難ビルへの避難

逃げ遅れたり、避難が困難な場合には、ハザードマップに掲載されている「津波避難ビル」に避難しましょう。



より高い場所へ 避難する

海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。

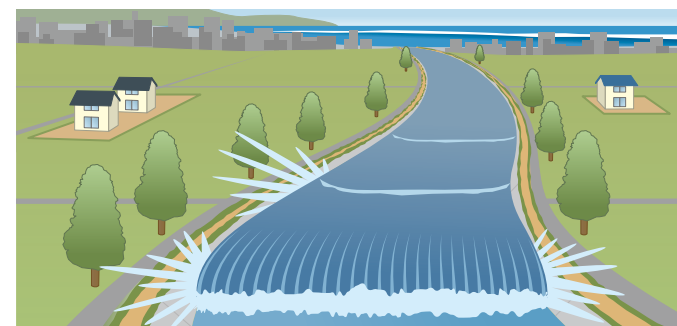


車での避難は 控える

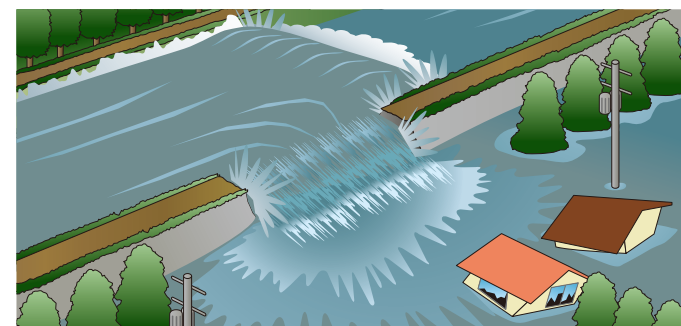
車は約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は控えましょう。

河川沿いの被害

津波は、河川を遡上し堤防を壊して住宅地が浸水する可能性があります。海沿いだけでなく、浸水が予想されている川沿いでも注意が必要です。



津波が河川を遡上し、越水する可能性があります。



地震により堤防が決壊する可能性があります。



台風の接近、
早期注意情報(警報級の可能性)等の発表

気象状況の悪化

気象状況の悪化
の前に行うこと

- ▶危険な場所の確認
- ▶避難場所の確認
- ▶持ち出し品の確認
- ▶災害情報の確認 等

災害発生のおそれ

災害時に
行うこと
避難行動

避難時の注意点

- ▶川や海には近寄らない
- ▶風による飛来物に注意する
- ▶土砂の流れに対して直角に逃げる 等

事前に確認

- 玄海町で発生する風水害…… P23
- 風水害をもたらす気象現象…… P24
- 洪水について…… P25
- 高潮について…… P26
- 土砂災害について…… P27, 28

災害前に再確認

- 情報の収集方法…… P3, 4
- 避難に備えて…… P5, 6
- 風水害への備え…… P11
- マイ・タイムライン…… P31, 32
- 避難場所等一覧…… P33, 34
- 非常持ち出し品…… 裏表紙

ついで避難

- 避難に備えて…… P5, 6
- 避難行動判定フロー…… P29
- 風水害時の避難…… P30
- 避難場所等一覧…… P33, 34

過去の水害記録



旧有浦小学校体育館前の状況(平成22(2010)年7月)



新田付近の状況(令和3(2021)年8月)



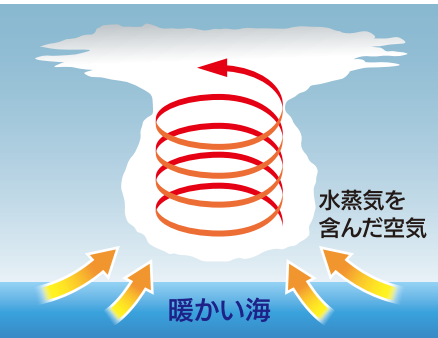
役場前付近の状況(令和5(2023)年9月)

年月日	要因	状況	住戸への被害
昭和47(1972)年7月	梅雨前線		
昭和55(1980)年8月	台風		
平成2(1990)年7月	豪雨	本町の中心部で氾濫発生	床上浸水32戸 床下浸水87戸
平成22(2010)年7月	梅雨前線	有浦川が氾濫	浸水被害発生
令和3(2021)年8月11~15日	前線に伴う降雨	有浦川が溢水 累加雨量320mm	床上浸水4棟
令和5(2023)年9月14~18日	前線に伴う降雨 (線状降水帯発生)	有浦川が溢水 累加雨量505mm	床下浸水2棟

暴風雨をもたらす台風のしくみ

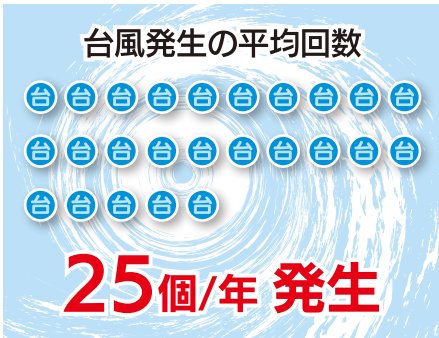
熱帯低気圧発生

海上で発生した上昇気流によって積乱雲が形成され、多数がまとまって渦を作ります。渦中心の気圧が下がって大きく発達したものが「熱帯低気圧」です。



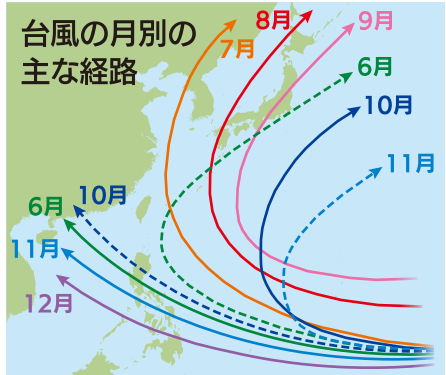
台風発生

暖かい海面から供給される水蒸気をエネルギー源として熱帯低気圧は発達していきます。最大風速17m/秒を超えたものが「台風」です。



日本に接近・上陸

台風は発達しながら北上します。風速や勢力が増した台風が、日本に接近・上陸し、暴風や大雨をもたらします。

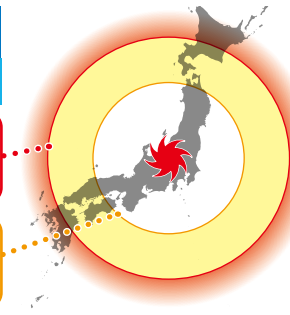


※実線は主な経路、破線はそれに準ずる経路

台風の大きさと強さ

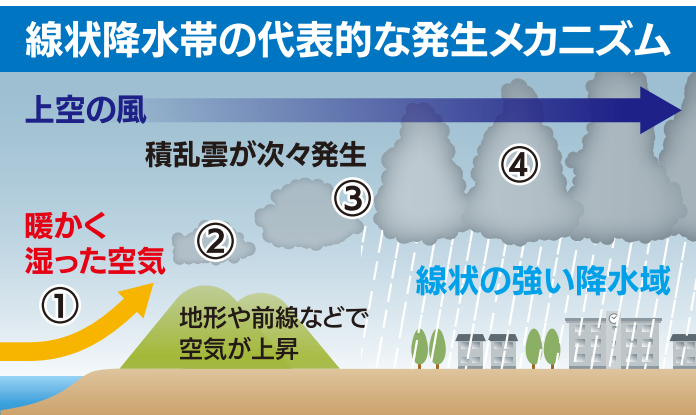
台風のおおよその勢力を示す目安として、気象庁は風速をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。中心気圧が低く、風速が強い台風ほど、災害を引き起こす可能性が高くなります。

強さの階級分け		大きさの階級分け	
最大風速	階級	風速15m/秒以上の半径	階級
54m/秒以上	猛烈な	800km以上	超大型 (非常に大きい)
44m/秒以上~54m/秒未満	非常に強い		
33m/秒以上~44m/秒未満	強い	500km以上~800km未満	大型 (大きい)
33m/秒未満	表現なし		



線状降水帯のしくみ

線状降水帯とは、次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなし数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる強い降水域のことで、これまでも大きな被害をもたらしてきました。



〈気象庁HPより〉

線状降水帯は、水蒸気の量、大気不安定度、各高度の風など複数の要素が関係しており、詳細については研究段階ですが、危険な現象であるため、気象庁では、令和3年から「線状降水帯」という用語で予測を公表しています。現在、線状降水帯に関する予測情報は、「線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ」で、緊急情報は、「顕著な大雨に関する気象情報」で公表しています。

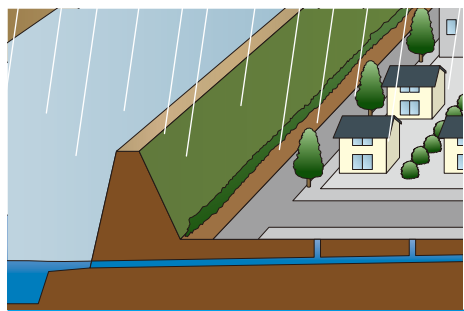
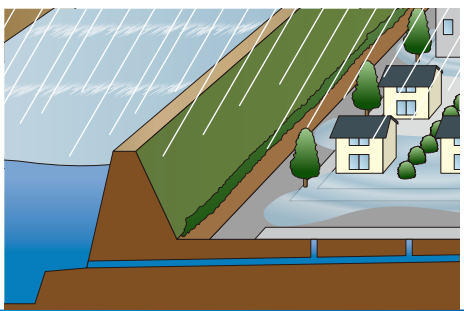
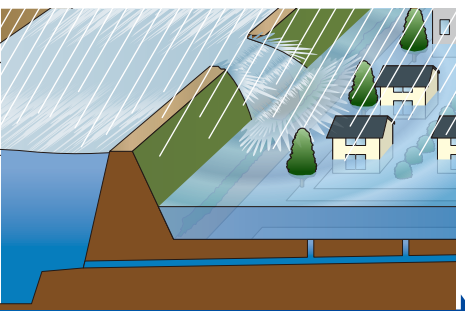
- ①低層を中心に大量の暖かく湿った空気の流入が持続
- ②局地的な前線や地形などの影響で空気が持ち上がり雲が発生
- ③大気の状態が不安定で湿潤な中で積乱雲が発達
- ④上空の風の影響で積乱雲や積乱雲群が線状に並ぶ



玄海町は、過去にも有浦川の洪水によって、被害が発生しています。洪水についての正しい知識や、対処方法や避難方法を知って身を守りましょう。

内水氾濫と外水氾濫

洪水には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こる氾濫（内水氾濫）と、川の堤防が壊れたり、水が溢れたりして発生する氾濫（外水氾濫）があります。まずは、洪水の発生するしくみを理解して、避難所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。

通常	内水氾濫の発生	外水氾濫の発生
		
通常、降った雨は水路や下水道（雨水）などを通じて河川へ排水されています。	大雨が降り、排水能力が雨量に追い付かなかった場合に、内水氾濫が起こり始めます。	さらに雨が激しく降ると、外水氾濫（洪水）の危険性が高まります。

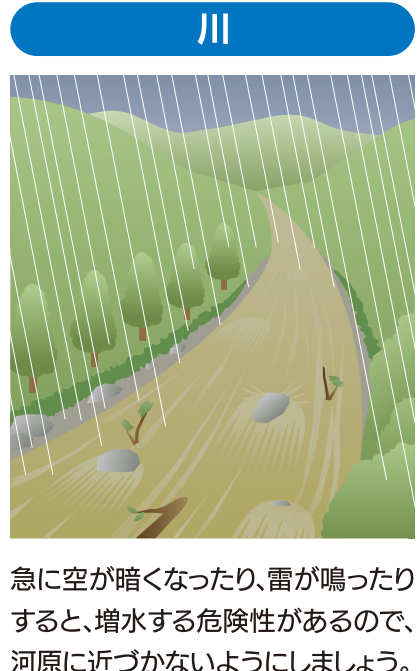
その場で雨が降ってなくても、川の上流で降った大雨により、下流で氾濫が発生することがあります。

大雨時に注意すること

- ① 川を見に行かない
- ② 車が浸かると動かなくなる
- ③ 上流(山側)が暗くなったり、雷が鳴っているときは川に近づかない



遊びに行くときは、川の上流の天気予報もチェックしておきましょう。



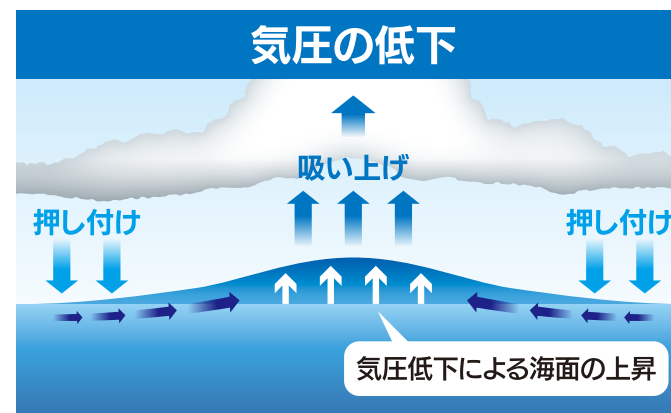
藤ノ平ダムの越流について

有浦川の上流にある藤ノ平ダムは、大雨で貯水量が増加し越流することがあります。町等から発表されるダムの状況についても十分注意しておきましょう。

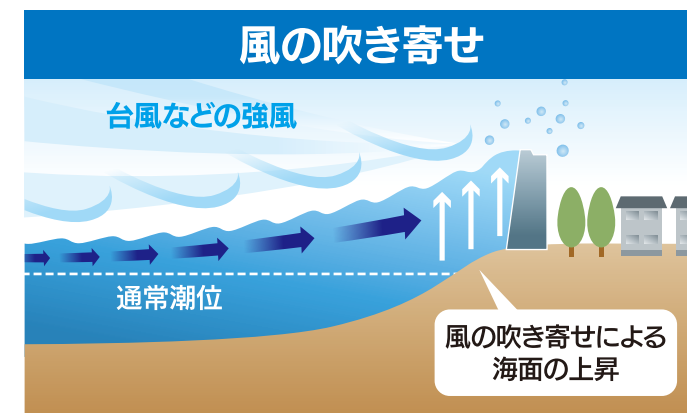


高潮発生のおしくみ

高潮とは台風や発達した低気圧によって、海岸付近で海面が異常に高くなる現象です。高潮発生の主な要因としては、以下の2つがあります。



台風や低気圧の中心気圧は周辺部より低いため、周辺部の大気が海面を押し下げ、また、中心付近の大気が海面を吸い上げるように作用することにより海面が上昇します。気圧が1ヘクトパスカル下がると約1センチメートル上昇すると言われています。

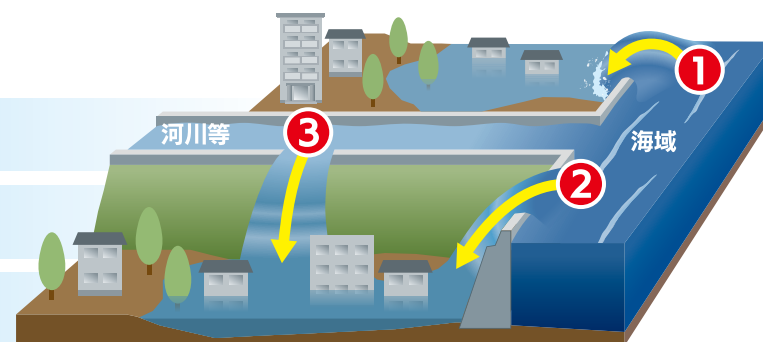


台風などの強風が沖から海岸に向かって長時間にわたり吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられて海岸付近の海面が異常に上昇します。

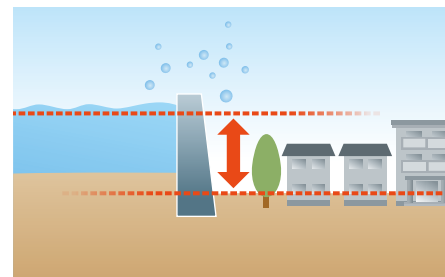
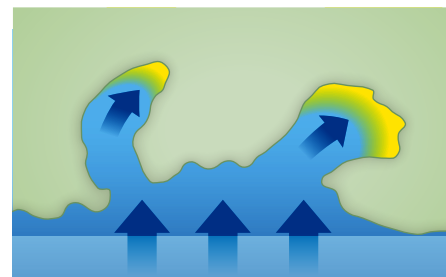
大潮期の満潮と高潮のピークが重なると、海面が上昇しやすくなり危険です。また、大雨により河川の水位が上昇している場合、河口付近ではさらに水位が高くなるおそれがあります。

高潮による主な浸水原因

- ① 高波 による堤防・護岸からの **越波**
- ② 高潮 による堤防・護岸からの **越流**
- ③ 洪水 による河川堤防からの **越流**



高潮の被害を受けやすい、注意する場所

海岸近くの低地	湾奥や遠浅海岸	台風の進路との関係
		

満潮時の平均的な海面の高さよりも低い海岸近くの土地は、浸水被害を受ける可能性があります。

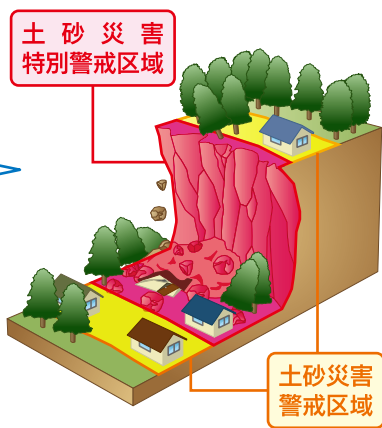
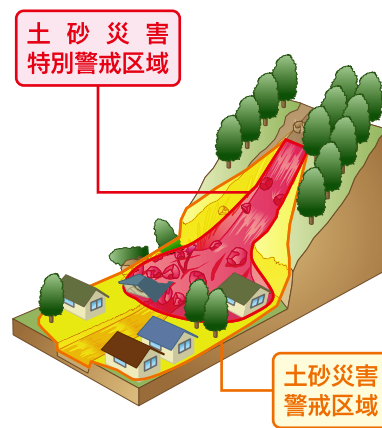
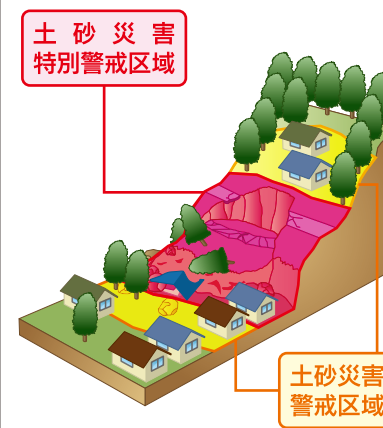
湾奥や水深が浅いところでは、吹き寄せられた海水が集まり、水位が上昇しやすくなります。

台風は進行方向の右側の方が風が強くなり、高潮が発生する可能性が高くなります。

土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が発生したときには、地盤がゆるみ、がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）や土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。下記のような前兆現象を確認したら、速やかに避難するとともに、玄海町役場へご連絡ください。

土砂災害の種類には、大きく分けて3つのタイプがあります。自分の周りではどのタイプの土砂災害が発生するおそれがあるのか、確認しておきましょう。

がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）	土石流	地すべり
 土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域 地中にしみ込んだ雨水などにより、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、犠牲者の割合も高くなります。	 土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域 大雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。流れ出した土砂により河川をせき止める場合もあります。	 土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域 大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、地面が広い範囲にわたりゆっくりと動き出す現象です。地面の異変に気がつくにくいので避難が遅れる場合があります。

！こんなときは要注意

土砂災害の前ぶれ（前兆現象）				
五感	移動主体	がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）	土石流	地すべり
視覚	山・斜面・がけ	●がけに割れ目が見える ●がけから小石がパラパラと落ちる ●斜面がはらみだす	●溪流付近の斜面が崩れだす ●落石が生じる	●地面にひび割れができる ●地面の一部が落ち込んだり盛り上がった
	水	●表面流が生じる ●がけから水が噴き出す ●湧水が濁りだす	●川の水が異常に濁る ●雨が降り続けているのに川の水位が下がる ●土砂の流出	●沢や井戸の水が濁る ●斜面から水が噴き出す ●池や沼の水かさが急減する
	樹木	●樹木が傾く	●濁水に流木が混じりだす	●樹木が傾く
	その他	――	●溪流内の火花	●家や擁壁に亀裂が入る ●擁壁や電柱が傾く
音		●樹木の根が切れる音がする ●樹木の揺れる音がする ●地鳴りがする	●地鳴りがする ●山鳴りがする ●転石のぶつかり合う音	●樹木の根が切れる音がする
におい		――	●腐った土のにおいがする	――

※上記は一般的な前ぶれです。すべての場所において必ず起きるというものではありません。

土砂災害警戒区域とは…

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域とは…

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

土砂災害から身を守るために

危険度の確認



住んでいる箇所が「土砂災害（特別）警戒区域」かどうか確認

土砂災害発生のおそれのある地区は「土砂災害（特別）警戒区域」とされています。普段から自分の家が土砂災害（特別）警戒区域にあるかどうか、ハザードマップや玄海町のホームページなどで確認しましょう。

情報の入手

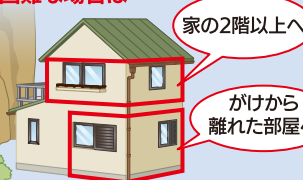


雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意

雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」に注意してください。テレビやラジオの気象情報で発表されるほか、気象庁や、佐賀県のホームページで確認できます。

→気象庁が発表する「土砂キキクル」でどこで危険が高まっているのかを確認できます。

早めの避難



避難場所等への移動がどうしても困難な場合は…

家の2階以上へ

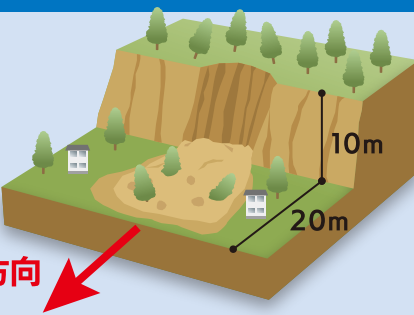
がけから離れた部屋へ

危険を感じたら早めに避難

お年寄りや障害のある人など避難に時間がかかる人は、移動時間を考えて早めに避難させることが大事です。また、土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。どうしても避難場所への移動が困難なときは、次善の策として、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所（がけから離れた部屋や2階など）に避難しましょう。

避難のポイント

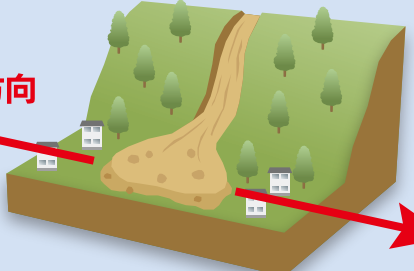
がけ崩れのおそれがある場合



避難方向

一般的に、がけ崩れの土砂は、地面が平らなところはがけの高さの2倍の距離まで到達するといわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くに逃げてください。

土石流のおそれがある場合



避難方向

溪流沿いの低い土地から離れてください。土石流のスピードはとても速いので、土石流を見たら、流れに直角の方向に逃げましょう。ただし、流れが曲がる箇所では、曲がりの外側に向かってかなり高い位置まで土石流がかけ上がるので、内側の方向へ逃げましょう。

他の危険区域を通らない

避難する際は、土砂災害警戒区域等なるべく通らないようにしましょう。ハザードマップで区域を確認してください。

やむをえず屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。

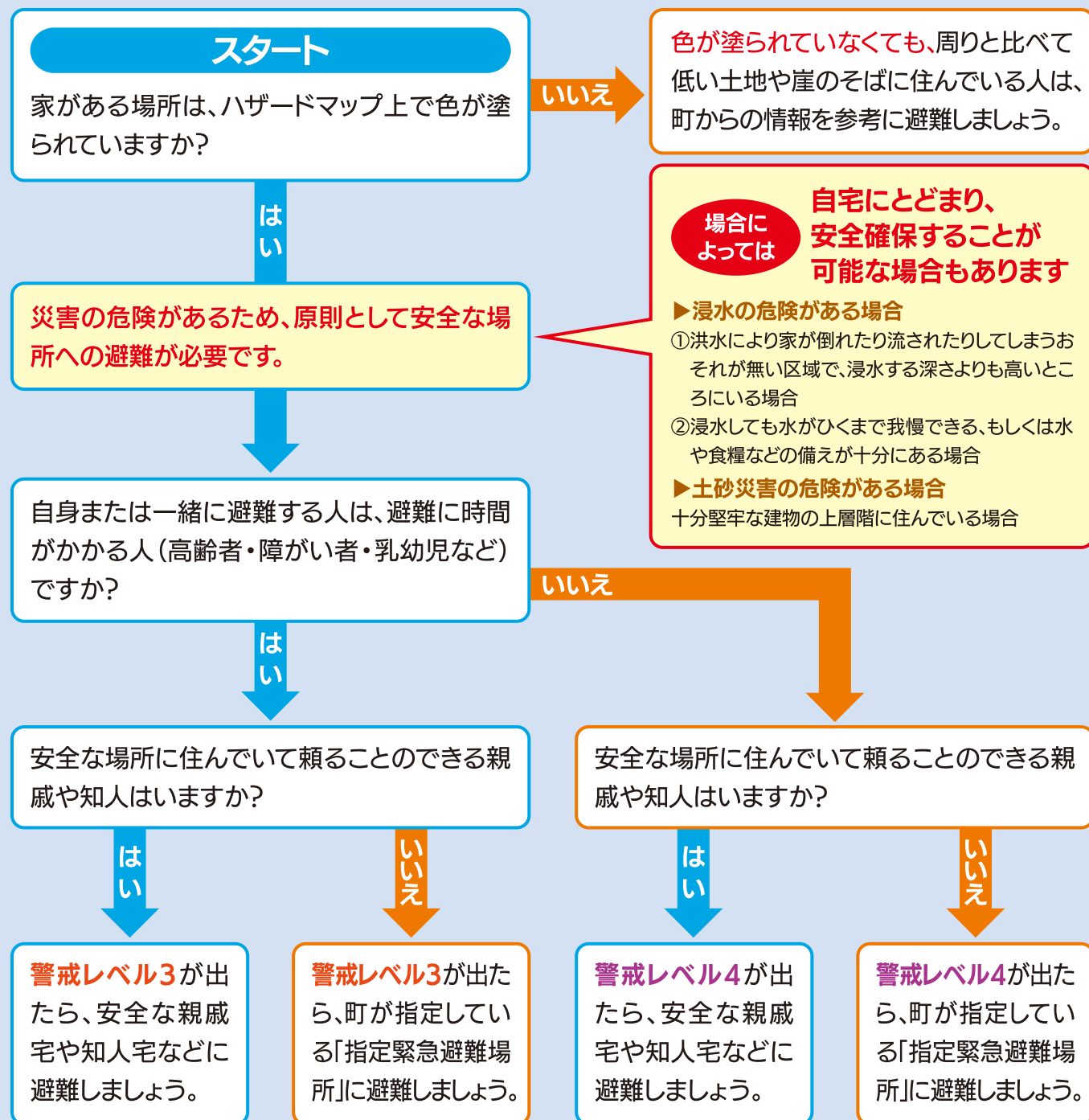
雨が止んだ後も注意

これまでに降った雨が土の中に残っています。雨が止んでも大雨警報が発表されている間は、土砂災害が発生するおそれがあるので警戒しましょう。



台風・豪雨時に備えて、避難行動判定フローを参考に、避難するタイミングを考えておきましょう。また、避難先を検討する際には、ハザードマップを確認し、自宅以外への避難が必要なエリアかどうかチェックし、あらかじめ適切な避難先を複数設定しておきましょう。

避難行動判定フロー



！ 警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。

！ 「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難先に行く必要はありません。

！ 避難先は学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館等に避難することも考えてみましょう。



風が強いとき・大雨のとき

毎年のように台風や集中豪雨などによって浸水害や土砂災害などが発生しています。これらの風水害は、地震と異なり、ある程度事前に災害の発生を予測することができます。危険が迫る前に早めに対応しましょう。まず、不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。また、テレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・特別警報や、玄海町からの避難に関する情報に注意しましょう。

風が強いとき …近年、台風の大型化や強い勢力を保ったまま、日本列島に接近する傾向があります。



- 室内では
風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。
- 路上では
看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があります。近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。
- 屋外では
電線が切れたり、瓦や物が飛んできたる危険があります。安全な建物の中に避難しましょう。

大雨のとき …集中豪雨の頻発化などに象徴されるように、昔に比べて豪雨の発生が急増しています。

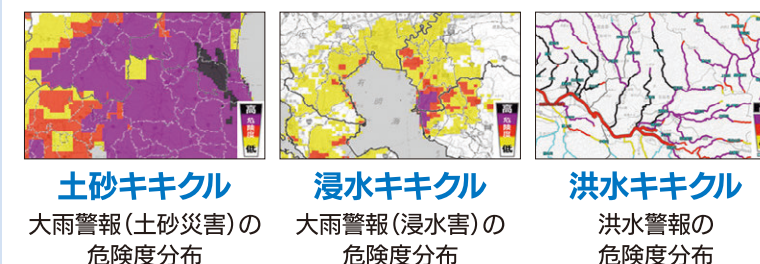


- 室内では
床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。
- 車の運転中は
豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに安全な場所に移動しましょう。
- 河原では
急な増水や土石流の危険もあります。速やかに避難しましょう。

気象庁は「キキクル」で 土砂災害 洪水 浸水 の危険をリアルタイムで提供しています

「キキクル」は、大雨や洪水による災害の危険が、どこで、どのレベルで迫っているかを、地図上で視覚的に知ることができる情報で、気象庁のホームページで公開されています。また、民間事業者と連携し、自分が登録した地域の災害危険度が高まった場合などに、自動で通知するサービスを提供しています。

キキクルの通知サービス 検索Q





「マイ・タイムライン」とは、大雨や台風等の風水害に備えて、事前の準備や行動を前もって整理しておく防災行動計画のことです。それぞれの家族構成や生活環境を踏まえ、「いつ」「誰が」「何をするのか」を決めておくことで、いざという時に慌てず行動することができます。身近にある様々な風水害の危険性を知り、どのような避難行動が必要か、どのタイミングで避難することが良いのかなどについて、日ごろから考えてみるのが大切です。

●「キキクル(気象庁)」で危険を知りましょう……………
「キキクル」は、浸水や洪水、土砂災害の危険度について「早い段階から」「地域を絞って」発表するものです。



気象庁
「キキクル」

あらかじめ確認しておくこと／行動内容

ハザードマップで自分の住んでいる場所の災害リスクを確認

自宅が	●浸水想定区域内に	☐ ある(浸水深 m)	☐ ない
	●土砂災害(特別)警戒区域内に	☐ ある	☐ ない

避難する場所の確認

●避難する場所	
●移動時間	分
●移動方法	

避難の際、支援が必要な家族・知人の確認

●名前	●電話番号
●名前	●電話番号

気象情報 大雨の数日前(早期注意情報の発表) >>> 気象状況が悪化(雨が降り出す等) >>> >>> 雨が強くなる(急激に気象状況が悪化し、いきなり豪雨となることも) >>>>> 命の危険を感じるような大雨

●危険度が高まる時間帯 → テレビや気象庁HPで「早期注意情報」や「危険度を色分け

した時系列」を確認(気象庁HP:<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>)

警戒レベルと状況	警戒レベル1 今後気象状況悪化のおそれ	警戒レベル2 気象状況悪化
警戒レベル情報	早期注意情報(気象庁) 5日先までに警報級の 現象が予想されるときに発表	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
警戒レベル相当情報	▼該当する災害リスクにチェックを入れる	警戒レベル2相当
	☐ 洪水等	▶洪水キキクル(黄) 浸水キキクル(黄)
	☐ 土砂災害	▶土砂キキクル(黄)
	☐ 高潮	
住民が取るべき行動	災害への心構えを高める	自らの避難行動を確認する
行動を確認 チェックボックスで 確認しよう	☐ テレビ・ラジオの天気予報に注意する ☐ マイ・タイムラインを確認 ☐ 家族の予定を再確認 ☐ 備蓄品のチェック ☐ 避難時の持ち物の準備	☐ ハザードマップなどで避難行動を確認 ☐ 安否確認方法の確認 ☐ 河川の情報に注意 ☐ 危険地域に住む親類 などへ連絡 ☐ 携帯電話を充電
あなたの行動を 書き出してみよう		

警戒レベル3 災害のおそれあり	警戒レベル4 災害のおそれ高い	警戒レベル5 災害発生又は切迫
高齢者等避難 (町が発令)	避難指示 (町が発令)	緊急安全確保 (町が発令)
警戒レベル3相当	警戒レベル4相当	警戒レベル5相当
▶洪水警報 ▶洪水キキクル(赤) 浸水キキクル(赤)	▶洪水キキクル(紫) 浸水キキクル(紫)	▶大雨特別警報(浸水害) ▶洪水キキクル(黒) 浸水キキクル(黒)
▶大雨警報(土砂災害) ▶土砂キキクル(赤)	▶土砂災害警戒情報 ▶土砂キキクル(紫)	▶大雨特別警報(土砂災害) ▶土砂キキクル(黒)
▶高潮注意報 高潮警報に切り替える可能性に言及する 高潮注意報	▶高潮警報、高潮特別警報	
危険な場所から 高齢者等は避難	危険な場所から 全員避難	命の危険 直ちに安全確保!
☐ 高齢者等とその支援者は避難開始 ☐ 土砂災害警戒区域内や洪水時に早期 避難が必要な区域内にお住いの方は 避難開始 ☐ その他の人も普段の行動を見合わせ たり、自主的に避難を開始	☐ 危険な場所にいる人は、速やかに全 員避難 ☐ 避難途中に危険を感じたときは、少し でも安全な場所へ(自宅や近くの頑 丈な建物の上階等) 危険な場所から全員避難完了	☐ 自宅や近隣の建物で緊急的に安全を 確保(少しでも 上階に移動す る、崖から離 れた部屋に移 動するなど)

警戒レベル4までに必ず避難!



※町が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5「緊急安全確保」は必ず発令されるものではありません。
※避難情報は、基本的に段階的に下げる、一挙に解除します。警戒レベル相当情報は、段階的に下げられます。

指定緊急避難場所と指定避難所

指定緊急避難場所 災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に、その危険から逃れるために緊急的に避難し、身の安全を確保することができる場所

番号	名 称	所在地	土砂	洪水	内水	高潮	地震	津波
1	小加倉公民館	小加倉334-5	○				○	
2	諸浦公民館	諸浦377-2	○(地すべり除く)	○	○	○	○	○
3	玄海町役場	諸浦348	○	○	○	○	○	○
4	玄海みらい学園	新田1809-6	○				○	
5	旧牟形コミュニティセンター	牟形1040-3	○	○			○	
6	座川内公民館	座川内786	○(地すべり除く)	○			○	
7	轟木公民館	轟木383-15	○				○	
8	大鳥公民館	牟形2568-3	○				○	
9	田代公民館	田代2021-2	○				×	
10	藤平公民館	藤平1029-1	○				○	
11	仮立公民館	今村6772	○				○	
12	中通公民館	今村6120-1	○				○	
13	シーライントウン集会所	普恩寺849-1	○				○	
14	九州電力値賀寮体育館	今村6316	○	○		○	○	○
15	値賀第2コミュニティセンター	平尾691	○	○		○	○	○
16	普恩寺公民館	普恩寺362-1	○(地すべり除く)				○	
17	平尾公民館	平尾903	○				○	
18	大園公民館	大園1151-1	○				○	
19	浜野浦公民館	浜野浦417-3	○				×	
20	石田公民館	石田494-1	○	○		○	○	○
21	玄海海上温泉パレア	石田1369-3	○				○	
22	花の木公民館	石田294-15	○				○	
23	栄公民館	石田41-39	○				○	
24	有浦下公民館	有浦下3980-4	○				○	
25	有浦上大松館	有浦上3355-11					○	
26	長倉地区農業研修センター	長倉941-1	○(地すべり除く)	×			○	
27	産業会館	諸浦338-1	○	○	○	○	○	○
28	玄海町公民館値賀分館	平尾846-2	○	○		○	○	○
29	玄海町福祉施設	平尾380-1	○	○	○	○	○	○
30	藤ノ平ダム公園	藤平930-1				○		○

指定避難所

災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまでに必要な間滞在させ、又は災害により家に戻れなくなった住民等を一定期間滞在させるための施設

指定一般避難所

指定避難所のうち指定福祉避難所以外の施設		
名 称	所在地	指定緊急避難場所と重複
玄海町社会体育館	新田1809-22	
旧牟形コミュニティセンター	牟形1040-3	○
九州電力値賀寮体育館	今村6316	○
値賀第2コミュニティセンター	平尾691	○
唐津青翔高等学校	新田1809-11	

指定福祉避難所

災害発生時に、要配慮者が一般の避難所での生活が困難であると判断された場合に避難する施設		
名 称	所在地	指定緊急避難場所と重複
特別養護老人ホーム玄海園	平尾432-8	
玄海町町民会館	新田1809-22	
玄海海上温泉パレア	石田1369-3	○
産業会館	諸浦338-1	○
玄海町公民館値賀分館	平尾846-2	○
玄海町福祉施設	平尾380-1	○
玄海町次世代エネルギーパークあすぴあ	今村4560-1	

避難先での心得

感染症

集団生活する避難所では、インフルエンザや新型コロナウイルス、ノロウイルスなどの感染症が広がりやすくなります。

予防対策

- 定期的に換気を行う
- 多くの人が触る部分はこまめに消毒
- こまめに水分補給をする

エコノミークラス症候群

長時間同じ姿勢で足を動かさないことで、足の静脈に血栓ができ、肺や脳の血管をふさいでしまう病気です。

予防対策

- 全身ストレッチ
- こまめに水分補給をする
- ゆったりした服装で過ごす

一酸化炭素中毒

狭い車の中は一酸化炭素中毒などになるリスクがあります。新鮮な空気と入れ替えることが重要です。

予防対策

- エンジンをかけっぱなしにしない
- こまめに換気をする

避難所3つのマナー

ゆずりあい

避難所はみんなで使うところです。限られたスペースしかありません。トイレの順番などできるだけゆずり合いましょう。



おもいやり

避難所では大きな声を出したり、走り回ったりすると、まわりの人たちの迷惑になります。お互いにおもいよりの気持ちで過ごしましょう。



たすけあい

避難所にはケガをしている人や体の不自由な人、また、病気の人なども集まります。みんなが少しでも快適に過ごせるように助け合いましょう。

